

萬治三 庚子年

正月朔日^{丁巳} 辰下刻 黒書院 出御緋御装束御太刀本多土

佐守 御劔 松平因幡守 上段 着御 左馬頭殿 右馬頭殿

御老人宛 御對顔太刀目録雅楽頭披露下段着座御吸物

御盃頂戴呉服臺^二而被進之

白書院 出御 上段着御 水戸中納言殿松平越後守御札

次 松平加賀守 松平相模守 御目見各着座御吸物出御盃頂

戴呉服臺^二而被下之保科肥後守御札下段着座御吸物出

御盃頂戴呉服臺^二而被下之 紀伊大納言殿名代水野對馬守

御目見雅楽頭披露松平右京大夫吉良若狭守酒井雅楽頭

今川刑部大輔井伊玄蕃頭松平淡路守松平刑部大輔松平播磨守

松平但馬守保科筑前守大沢兵部大輔松平伊豆守阿部豊後守

牧野佐後守^{日録は佐後守}老入宛御札御盃頂戴^二而被進之藤臺

和泉守松平大和守小笠原右近大夫本多内記松平下総守酒井修理大夫

稲葉美濃守御札御盃頂戴^二而被進之

大廣間 出御之刻大廊下奏者番詰衆同惣領老中子供

南之御縁類 御通り懸 御目見 大廣間 出御襖障子雅

楽頭披^キ御次之間御譜代大名三千石以上法印法眼兩典

三人家来太刀目録前置一同御札御流頂戴呉服廣蓋拜領

入御之節大廊下久志本式部久志本左京林又三郎捧進物

御札申上同所に敷居内伏見勘七郎銀馬代御目見同所當番

之醫師御札 白書院御下段襖障子南之方二本取北^{者立付}

同南類^{日録も記述なし}杖戸取御次之間内南 三本 通より東方御

小姓組御番所迄御小姓組御具足奉行御弓矢奉行道奉行御腰物

奉行御勘定方並居一同^二御札同所南側墨縁^二呉服師後藤庄

三郎後藤家狩野本阿弥蒔繪師鞍師此外之御扶持被下

正月二日^{戊午 樂未刻^者} 辰下刻 白書院 出御被御装束御太刀

本多土佐守 御刀大久保出羽守 上段 着御 紀伊宰相殿

御對顔御吸物御盃頂戴呉服臺^二而被進之 水戸中將殿

名代藤田將監御札 御目見松平左兵衛督御札呉服臺拜領

大廣間 出御 松平新太郎 松平大隅守 松平出羽守 松平安藝守

松平大膳大夫 細川越中守 森内記 松平阿波守 立花飛騨守

宗對馬守 松平丹後守老入^ツ御札御吸物御盃頂戴^二而被進之

終^二而四品之輩伊達大膳大夫 佐竹右京大夫 京極近江守 松平筑後守

板縁御札御盃頂戴呉服廣蓋拜領喜連川佐兵衛御札呉服拜領

間襖障子雅楽頭披露御次之間中大名面々御札御流頂戴

呉服拜領 入御之節大廊下岩船檢校昌桂玄祥昌陸伯

元無官醫師御札申上候 白書院東方墨縁^二御代官^并松平

太郎左衛門鈴木修理木原内匠御札

同三日^{巳刻^者北風吹入止} 巳刻 白書院 出御御長袴御刀 松平紀伊守

徳川右兵衛督殿 御對顔下段着座御吸物御盃頂戴退去

有馬松千代 嶋津又三郎 鍋嶋左衛門太刀目録持參^レ御札南縁類

西杉戸際 立御無官面々此末席緒家證人家臣共太刀目

録^子以御札 同所縁 上京下京江戸大坂堺奈良伏見

淀過書 銀座 朱座 大黒長左衛門江戸町年寄並居一同御札

奏者番披露之御連歌之間北席下中根宗閑 石谷土入

杵浦内蔵允間宮忠左衛門御札於 御座之間酒井讚岐守年頭

御札金馬代献上御盃頂戴呉服臺^二而被下之

御話初^二付西下刻大廣間 出御 御長袴御刀 岡部志摩守

中段 着御 襖御座置 御刀掛有

水戸中納言殿出座 御對顔雅楽頭披露直^二御前より御向

柱際着座此時御次間着座^并殿中祇候之面々

志原^母志原 松平和泉守

志原^母志原 松平主殿頭 牧野飛騨守

志原^母志原 四海波小謠 觀世太夫謠

老松 觀世太夫 五兵衛 三郎兵衛

東北 十太夫 清五郎 又三郎 兵衛

高砂 十郎兵衛 平十郎 孫右衛門 庄次郎

御盃臺披露有之過 觀世太夫白綾之小袖二宛被下進物

番持出雅楽頭出座於西縁渡之次而太夫 千足宛惣惣

猿楽 式百疋 折紙被下廣蓋載進物番持出於同席

奏者番兩人出座渡之御銚子出 御前被 召上御扣之内

兩大夫拜領呉服着之

弓矢立合 觀世 助九郎 忠治郎 藤七郎 十太夫

同罷立舞終時分御扣被遊御銚子入品々引之松竹

臺を殘^ル 御前御肩衣雅楽頭奉取之西縁類御敷居際持

參觀へ被下 水戸殿肩衣太夫^江渡其外可拔之旨雅楽頭傳

右一札^{日録は右一札}伺公之面々取之畢黃門^江御會積有之

入御

一 浅草袋町^ノ亥刻出火旧冬燒殘候処不殘燒^并駒形堂

竹町茶屋不殘燒失

正月四日青宮中別条無之

同日^{既刻^者北風吹} 巳刻 白書院 出御 御長袴 上段

着御毘沙門堂御札二束一卷被猷雅楽頭披露之

御座之御右方着座獨札之出家十八人大緒五筋日吉大膳

右過^而毘沙門堂退去間之御襖障子雅楽頭披露御次之間^二

出家十式人上野一山也進物置並居其外紅葉山附面々伊勢

青木太夫使者一同御札

同六日^{北雨風甚} 巳刻 白書院 出御緋御装束 上段 着御

御太刀本多土佐守 御劔石川能登守 三束一卷 増上寺

一束一卷 傳通院其外獨札御札過^而

大廣間 出御獨札出家下段並居社人等板縁祇候一同御札

過少し内御納戸構^二入御獨札之寺社從中襖障子雅楽頭

披惣寺社一同御禮 入御之刻 白書院墨縁千人頭徳川

万徳寺正田隼人伊勢稲葉御札御連歌間北廊下嶋田一元

御札

正月七日^{巳刻^者北風吹} 於 御座之間 左馬頭殿右馬頭殿七種為御祝

儀 御對顔 白書院 出御 上段 着座

水戸殿 紀伊殿 保科肥後守 松平左京大夫 松平右京大夫

井伊玄蕃頭 保科筑前守 松平下総守 右七種御札

上秋宮内大輔京都^江 上使 吉良上野介 日光十七日為

御名代太田備中守日光廿日為 御名代可被遣之旨

夜^二入舞被 仰付 景清 和田酒宴 幸若弥次郎

江嶋詣 同次郎右衛門

一 虎御門御普請奉行日根半助病死付^テ代り山本六左衛門被

仰付之

正月八日 既刻ノ
雨北風吹 天樹院御方奥方入奥付為御迎御留守居番
被遣

同日 青宮中別條無之

同日 青午刻御表 江 出御候候之面々 御目見
亥刻濱町ノ出火一町程焼同刻火鎮

同日 十一日 巳刻ノ北西風吹 巳刻 黒書院 出御御具足餅御祝儀
有之 保科肥後守 松平右京大夫 松平出羽守 井伊玄蕃頭
右老人ツツ御目見此外四品御譜代以下 御目見
(日録は御進歌之間) 御連歌北之廊下 江 出御 御連可御興行

光そう玉松やたく千々の春 昌桂
(日録は夕方の月) 岑にのときき夕方御月 御

風霞み雲の なる山あけて 玄祥
かつるか馬の声はるかなり 俳海
船とめて録をそしる浦つたへ 実俊
波のうゑなる夕日しつけし 堯盛
一とをり芦辺に雨や過たらん 閑与
人こそ出れ小田の中して 某何
明たとれ男鹿の床をかえけらし 昌陸
山乃すそのの月くにきかゑ 執筆

遠国之出家社人御暇銀子時服等被下之

同日 十二日 巳刻ノ北風甚 評定所寄合 松平伊豆守出座

大久保右京亮 与頭 本多左太夫 寛新兵衛
池田帯刀 与頭 服部久右衛門 宮崎助右衛門
松平豊前守 与頭 久留七郎左衛門
岡部丹波守 与頭 稲垣清右衛門

右之面々今度日光 江 御社参付 道中縦目付被
仰付 於 御座之間平家被 仰付候岩船檢校勤 ル
額打論 將軍院宣 吉野軍

正月十三日 巳刻ノ北風 巳刻 黒書院 出御 上段 着御
尾張中納言殿年頭御礼金馬代被献之雅楽頭披露之

御吸物御盃頂戴呉服臺^二被進之

吉良上野介太田備中守日光御暇被下物無之日光御門跡
一荷二種被遣之上秋宮内大輔京都^江御暇金五枚小袖式羽
織被下之久保寺小左衛門小林清左衛門関宿筋水見分被遣
御暇銀十枚宛被下

正月十四日 巳刻ノ亥刻迄
北西風甚地震 巳下刻天神大門先大御番川谷左衛門
宅出火天神前瀧又助畔柳助九郎大岡金三郎組同心

屋敷三十四方焼亡神田明神裏門前茶屋より火事松平
加賀守福原淡路守 并御臺所衆不残焼失湯嶋二丁目二三
間焼失ノ猿楽町東方片側焼本多能登守太田備中守
村松町ノ和泉殿橋切火鎮筋違橋札之辻際ノ連雀町片類
上柳原坊主衆沢田町之火ノ佐竹修理大夫屋敷留
修理大夫屋敷ノ不焼十八町横五拾八町焼 白銀町通

少残夫ノ東方焼出元誓願寺前戸田相模守松平内匠頭
市橋下総守西尾半助井上帯刀門奈兵部加藤平内津田平左衛門
春左衛門安藤伊織小傳馬町通安藤對馬守下屋敷箱崎
橋 二留^ル九町横五十三町南方ノ中橋廣小路 二火
留本町ノ常盤橋札之通ノ油町 二火静八丁堀間

宮造酒之丞九鬼式部村越長門守同心屋敷二町四方焼
小濱久太郎長屋小笠原安藝守長屋焼失松平越中守
并南新堀焼一丁残ノかやは町不残籠屋帯刀詰所 并
同心屋敷不残焼籠ノ残ノ橋ノかいそく橋薄屋丁通中
縦橋思案橋焼惣家数式千三百五十八軒惣合丁数百拾
九丁鉄炮町石町間八十人余焼死白銀町四丁目人数十五
人焼死

一 今夜天神前於地獄谷御勅定館傳介と酒井修理大夫家来
鶴田多右衛門喧嘩仕出傳介を切殺多右衛門立退由也

正月十五日 時々晴巳刻ノ
雨風夜大奇降 如例月御札在之 年頭之御礼

銀馬代 織田出雲守 同 小出大和守 分部式部 松平大藏
谷大学 一束一本 鎌倉光明寺 飯沼弘経寺 知恩院方丈
使僧常徳院 駿州宝臺院 遠州真永寺 同可睡齋
足利学校 甲州惠林寺 尾州木門寺 同光長寺 摂州大念仏寺
右獨礼申上候間襖障子雅楽頭被御次之間^二寺持八人一束

一本以 御目見 入御之時 白書院 小廊下
銀馬代 天樹院様御内 長田十太夫 同 高田様御内 長谷川刑部
市橋下総守類火付^二火消番御免為代秋月佐渡守被
仰付

同日 十六日 午卯刻寄聲 大久保丹波守 明日可致 御目見由被為傳
去十四日焼死人民無縁之者七十余人於回向院吊之

同日 十七日 既刻ノ雨
未刻止 辰刻紅葉山 御宮為 御社参 出御
緋御装束殿上間板縁ノ 御帳 御簾 吉良若狭守
御太刀 本多土佐守 御劔 松平因幡守 (日録は御意) 石川能登守
御先 酒井雅楽頭 御供 松平伊豆守 阿部豊後守 稲葉美濃守
即刻 還御

大久保丹波守於時計間 御目見申上
同日 十八日 既刻ノ北西風未刻止 御膳奉行永井左兵衛松平一郎左衛門松平彦兵衛
本多金右衛門丸茂三郎左衛門秋浦弥市金三枚ツツ被下是御奉公
相勤付^二也

一 酒井修理大夫家来鶴田多右衛門切腹被 仰付為檢使御徒目付
成田八左衛門笠原四郎右衛門被遣是去十四日夜天神前地獄谷
喧嘩仕付^二也
一 今月十四日尾州名古屋城下申刻出火侍屋敷八拾一軒町
屋九丁四方焼失黃門より被注進之同夜小金在家
火事民屋三百軒余焼失之由注進之
一 酒井撰津守病氣以外澁江長意願^二付^二被遣之

同日 十九日 巳刻ノ風吹 福原淡路守類火付^二日光御普請手傳御免
在所ノ御暇被下之為代太田原出雲守芦野左近被
仰付兩人在所^江御暇被下物無之

同日 廿日 青辰后刻紅葉山 御堂 御参詣 御装束
御簾 吉良若狭守 御太刀 保段土佐守 御刀 石川能登守
御踏 牧野長門守 御先 酒井雅楽頭 阿部豊後守
御供 松平伊豆守 稲葉美濃守 即刻 還御
一 吉良上野介日光帰於 御座之間 御目見
一 土方奎之助殿中^江招之去十四日火事節出精付火消番

御免之旨被傳之

同廿一日 北西風吹已刻為止 去年十二月廿五日二丸火之番内嶋清兵衛方より

御歩行坪内又左衛門組葛巻九郎左衛門方江用所有之由にて
書状遣候處九郎左衛門他出不能返答然故及名清兵衛事
九郎左衛門宅參入呼出し於途中意趣在之旨堪忍成間敷
由申付而互力を被双方手負兩人共刀落組合罷在候処江辻
番出合双方之宿江入也右御穿鑿之上首尾時次無俣二人
比二切腹被 仰付為檢使御徒目付倉藤太夫成田八左衛門
石上与左衛門重本左五右衛門被遣

同廿二日 已刻而雨風 於 評定所寄合美濃守出座

巳刻 黒書院 出御 上段 着御 御暇有之
小袖十羽織御馬一疋 本多下総守 銀五十枚 市橋下総守
此兩人類火付而御暇被下之年頭御礼 銀馬代 建部内匠
一 青木市左衛門小十人日録は小十人與小長谷左衛門与頭小谷与左衛門跡役筒井内蔵組也
今度類火二逢候面々日光御供御赦免之候也

同廿三日 雨風吹 雅楽頭伊豆守美濃守向嶋為見分相越久世

三四郎今日病死

同廿四日 北西風吹即刻而雪降午刻止即刻而 今日紅葉山 御參詣之儀雪中

御延引為 御名代雅楽頭 參詣ス 太田備中守日光掃於
御座之間 御目見 日光御門跡御到着付 品川内膳正
御菓子被遣之

同廿五日青今度類火逢候上柳原坊主衆屋敷下柳原御教寄屋

方坊主衆屋敷御用地二付而可被 召上由被 仰渡候
雪中伺御機嫌酒井讚岐守登 城於 御座之間 御目見

同廿六日 既刻而北西風吹 今夜戌刻御臺所町吉村又左衛門宅より

出火近辺之御臺所衆類火火甚敷 御本丸二丸風下二
付而俄松平下総守本多越前守火消加勢被 仰付

同廿七日青御連枝方國持大名へ歳暮之御内書被渡使者に

時服被下

一 去年十二月廿七日卯刻而巳下刻迄對州府中出火焼失分

家數千七拾軒内百廿軒ハ侍屋敷六拾二軒ハ足輕中間
八百八拾八軒町屋敷也焼死人拾六人橋八ハッ小橋敷多燒
落依之殿中江對馬守招之米一万俵被下旨也

千代姫御方 奥方 入興

一 御右筆被 仰付面々小島久左衛門次男芦屋孫左衛門彦左衛門子

中村平右衛門因獄子渡辺傳四郎勘兵衛子松野久左衛門水野猪之助
二郎右衛門子加茂宮庄右衛門 喜兵衛子齋田久三郎
丑刻浅草松平内匠下屋敷不残燒

正月廿八日 曇午刻而風吹 如例月御礼有之

大廣間 出御 御羽織 御長袴

一 阿蘭陀人カヒタン板縁伺公之以進物御禮申上
一 糸大花毛氈 二枚 一 糸小花毛氈 二枚
一 縫蒲團 一枚 一 鳥羽立物 二ワ
一 色鳥羽 十枚 一 猩々緋 三反
一 色羅紗 同 一 奧嶋 廿端
一 又イサラサ 同 一 サラサ 同
一 ス金巾 同 一 霜フリサラサ 同
一 ヒイトロ作物色々 十五 一 沈多酒 二樽

參勤 箱肴 奥平美濃守 銀馬代 榊原越中守

同 梶井御門跡使僧同 圓滿院御門跡使者同 実相院御門跡使僧

三束一卷 御祓 三井寺惣代 一束一卷 三州 大樹寺

同 八幡 田中坊 菖蒲皮三枚 同前 豐藏坊

一束一本 竹生嶋 吉祥院 右独礼申上終而間襖障子

雅楽頭披御次之間二 一束一本 八幡惣中 森本市之丞

建徳寺 遠州 妙寿城寺 播州 知満寺 一闍院 元湯寺

惣持寺 弘誓寺 小池坊 觀照院 宝轉寺 安養寺

知積院 成就院 羽州最上 光明院 駿州 宝臺院

御連歌間北廊下江州太郎左衛門松平清兵衛大草太郎左衛門

平野三郎左衛門ハ鳥目御礼申上

御暇 小袖七羽織 太田備中守 吉祥寺上り屋敷被下候

被下物無之 阿部伊与守 御歩行頭御免 多門傳八郎

火消被 仰付面々 糒町筋 松平越後守 松平出羽守

天樹院廻 井伊玄蕃頭 二卷 酒井修理大夫 堀田上野介

竹橋筋 土屋民部 雉子橋御藏廻 内藤飛騨守

手前屋敷 式町四方 稻垣信濃守

秋山十右衛門 内藤勘之丞 近藤彦九郎 町野助右衛門小袖三

被下是昨日切々火事骨折申付而也 意安法印向後

御前御脈伺可申候由被 仰付也

同廿九日 役儀被 仰付

百人組 久世三郎郎跡 横田次郎兵衛 御持弓頭 横田次郎兵衛跡 日向傳右衛門

御鉄砲頭 日向傳右衛門跡 黒田源右衛門

一 甲州去廿六日火事出来町敷二十二町焼失由注進之

同晦日 當中別条無之

二月朔日 巳刻少小雨午刻晴北西風吹 巳刻 白書院 出御 緋御裝束

御太刀本多士佐守 御劔 松平紀伊守

日光 久能 御鏡御頂戴仍諸大名出仕無之伺公面々裝束着之

御太刀目錄 三束二卷 日光御門跡 独礼之衆々

三束一卷 山門惣代 一束一卷 修学院 同 竹林院

一束一本 覺枿院 松高院 德音院 白喜院

延命院 吉祥院 青龍院 右御礼過間襖障子雅

楽頭披御次間遠国寺社十三人一束一本献御礼申上候御

徒頭多門傳八郎跡大久保彦兵衛上同黒田源右衛門跡天野佐左衛門

同日 卯刻北西風申刻止 日光御門跡江 上使大沢兵部太輔

銀百枚小袖五被遣是正月之御祈禱料也

酒井撰津守於 在所病氣二付 俸左衛門尉御暇被下之

同日 巳刻北西風吹 阿蘭陀人御暇小袖三拾被下大廣間於ける三間

伊豆守豊後守美濃守出座カヒタン被 召出北条安房守以

切支丹宗門之儀役之被 仰出候通堅為御穿鑿之間其

旨存御注進可申上候并通辞小袖二被下候

女院御所御使岩付新吾左衛門御暇銀五枚被下之知久内藏

座光寺勘左衛門小笠原鞆負御暇被下物無之

巳刻一ヶ谷若宮八幡前戸田采女正下屋敷出火服部安右衛門

其外町屋類火采女正 少残

未刻牛込天龍寺前中嶋吉左衛門宅出火風甚敷青田権之助

織田五郎左衛門内藤与右衛門仲五郎右衛門中田佐平次松野左五右衛門

新庄与左衛門其外町屋少々焼失

同日 辰刻雪降巳刻止雨 松平伊豆守久世大和守忌御免二付 登

城也稲垣信濃守最前二町四方火消雖被 仰付向後七町

四方火消相勤由也

紀伊重相國元より以使者鷹之鷲被献之

御暇銀廿枚小袖二羽織 昌桂 同十枚同二 玄祥 同昌隆

同日 雪降巳刻少 酒井雅楽頭息女夜中卒去付登

城無之 水戸黄門 上使伊豆守 尾張黄門

紀伊相公江 上使豊後守 左典 上使美濃守被遣

當四月 日光 御参詣可被遊処切々火事二付 御延引之由也

同日 雨風吹時北風甚 日光 御参詣之儀御延引由於芙蓉之間詰衆

諸番頭諸役人老中被傳之松平右京大夫井伊玄蕃頭

被為 召被 仰出之日光御門跡へ 上使伊豆守

を以 御社参御延引之由被仰遣關兵部佐藤勘右衛門藤掛

監物荒木十左衛門日録は黒木十左衛門 殿中招之 日光 御社参御延引被遊

間兼二被 仰付御用之義可存旨也

巳刻 御表 出御伺公之面々 御目見

同日 青酒井雅楽頭忌御免付二登 城也

同日 青火消被 仰付候 上野 加藤出羽守

下谷筋 京極飛騨守 丹羽式部少 小石川筋 三宅隼人

一 雅楽頭伊豆守豊後守美濃守代官町見分相越之

一本多左太夫兄新兵衛宮崎助右衛門服部久右衛門久留嶋七郎左衛門

稲垣清右衛門於 御前御目付役被 仰付

於 御座之間酒井讚岐守雅楽頭伊豆守豊後守

美濃守牧野佐渡守御料理被下 御手前二 御茶被下之

於 御前鈴木喜左衛門天野五郎大夫包丁被 仰付之

一 奉公人屋敷二 町人借屋有之分毎日改之可申之旨御徒目付被 仰付之

同日 青殿中別条無之

同日 青牛込和泉橋迄丹入堀 普請松平陸奥守 仰付

是依在国以奉出被傳之

同日 青雅楽頭伊豆守豊後守代官町天神筋上柳原向嶋屋敷

見分相越之

同日 巳刻甚雨風 雅楽頭伊豆守豊後守西窪芝筋屋敷見分相越之

酒井讚岐守為伺御機嫌登 城於 御座之間 御目見

同日 巳刻北風吹 御表 出御伺公之面々 御目見

同日 巳刻甚雨降 以上使御三人方両典殿御女中御方江昨日

御狩野鷹被遣於 御前筑後守隠岐守雅楽頭鷹拝領之

松平加賀守登 城是國元御目付被遣御礼謁老中退去也

一 午刻伊丹藏人士手屋敷焼失

老中二丸へ相越之

同日 青於評定所式日寄合豊後守出座

午刻 御表 出御伺公之面々 御目見

同日 青如例月御礼在之 御暇面々

小袖三羽織金五枚 中川飛騨守 大坂へ金五枚小袖二 松平隼人正

大坂御目付 金五枚 土岐十左衛門 丹羽羽右衛門 右御礼終 間襖

障子雅楽頭披御次間遠国寺社以進物捧御禮

去頃被 召出御右筆九人於黒書院以鳥目御礼申上 上枚宮内

於 御座之間 御目見

一 酒井撰津守於 領知去九日 病死由注進之

同日 青從遠国参上之出家社人御暇時服白銀被下

所々国目付被 仰付之 加賀 渡辺筑後守 能勢治左衛門

筑後 藤堂主馬 江原宇右衛門 信濃 西尾藤兵衛 荒尾平八郎

同日 辰刻麻布筋 為 御名代紅葉山江美濃守参詣

同日 青少々風吹 辰刻麻布筋為御鷹野 出御

御供 阿部豊後守 久世大和守 土屋但馬守

御留守居 松平伊豆守 朽木民部少 内藤出雲守

御留守居衆

御茶園 入御 御膳被 召上未刻 還御

御物敷 御奉 白鳥老 脇鷹 白鳥卅八 同生物老

真鴨十 小鴨三 鷺一

麻生於 御茶園清水権之助小袖一羽織被下御鷹合羽候処

御鷹共二堀へ飛入候欠付取上申付也

一 午刻四谷大御番小宮山喜左衛門宅出火八丁程焼 尾張殿

屋敷切々火留仍稲葉美濃守路次へ為 御迎参上也

同日 巳刻甚雨降 以上使御三人方両典殿御女中御方江昨日

御狩野鷹被遣於 御前筑後守隠岐守雅楽頭鷹拝領之

松平加賀守登 城是國元御目付被遣御礼謁老中退去也

一 午刻伊丹藏人士手屋敷焼失

同廿一日西南風吹已刻止 東叡山為 御名代豊後守參詣

川越蓮桂寺後住増上寺一老存秋被 仰付之

一 大御番大久保右京亮組小宮山喜左衛門事逼塞可仕旨被傳是、

去十八日為御鷹狩 出御刻喜左衛門宅より出火付付也右之段

右京亮江被 仰付之但喜左衛門召仕十二三小僧昼寝仕罷在候処

十歳計童子来火付可申由申付風手おき火付申候由也

同廿一日辰刻より小雨 巳刻黒書院 出御 官位御礼有之候

小袖五金馬代 保科筑前守 金馬代 松平河内守

金馬代 松平大蔵少 同 立花左近將監 銀馬代 藤堂佐渡守

銀馬代 本多兵部少 同 九鬼長門守 同 松平山城守 同 松平肥前守

同 松平圖書頭 同 龜井伊与守 同 秋月佐渡守 同 内藤志摩守

同 永井市正 同 板倉筑後守 同 牧野内匠頭 同 森川下総守

同 村越長門守 家督之御礼 金五枚小袖三 織田左近 金二枚 朽木権佐

蠟燭二百挺 朽木弥五左衛門 銀馬代 朽木市之丞

隠居御礼 糟屋御茶壺 織田左衛門 兼光御脇差 朽木兵部

繼目御礼 金式枚小袖三 秋月佐渡守 長義御脇指代金十五枚

秋月長門守 遺物

御暇 小袖五羽織 内藤左京亮 同 四羽織 水谷左京亮

二条在番御暇 金枚小袖三羽織 植村帶刀 松平外記

銀式拾枚小袖二宛 大御番向組頭八人 銀十枚 両組中

佐渡奉行 御暇 金十枚小袖二羽織 御手洗四兵衛

八丈江 金式枚小袖二 谷庄兵衛

同廿二日南風 土井兵庫頭 堀田備中守 向後御奏者番被 仰付

於評定所寄合美濃守出座 水戸殿江 上使松平伊豆守被遣

御用不知

同廿三日青大御番植村帶刀組与頭松平庄太夫事御納戸頭揖斐与

右衛門跡役 松平九郎左衛門事大御番松平豊前守組与頭被 仰付

筒井治右衛門事岡部丹後守組頭被 仰付小宮山傳九郎大久保

善大夫大久保右京亮組頭坪内藤右衛門寛勘右衛門池田帶刀

与頭被 仰付

同廿四日西南風吹已刻止 増上寺為 御名代豊後守 參詣

一 未刻 京都疊町より火事出来町屋廿五町焼失加々爪十右衛門

長屋松崎権左衛門伊達宮内少類火

同廿五日青今日 御灸被遊候

同廿六日青殿中別条無之

同廿七日辰刻地震 宮中別條無之

同廿八日青今朝 水戸黃門江 上使雅楽頭伊豆守被遣之

如例月御礼有之 參勤御礼 金馬代有馬左衛門佐

箱肴 西尾主水 同 西郷孫六郎

一束一本京相国等 吉長老 同 三州鳳来寺 醫王院高野山 一乘院

同 大僧正名代 扇子大徳 養源院名代 一束一本熊谷 竹之坊

名代 入御之節 御連歌之間北廊下 鳥目 鳥山市大夫

市野惣大夫 參府 金三枚小袖四 増山彈正少

是、去年所替被 仰付御礼

同廿九日辰刻より北風吹午刻より少々夜八止 辰刻角田川筋為御鷹狩 出御

御供 松平伊豆守 土屋但馬守

御留守居 阿部豊後守 久世大和守 酒井日向守 御留守居

御物数 御奉白鳥三羽 脇鷹 馬三十三 鴨十五

角田川 御殿 御膳被 召上 未下刻 還御

三月朔日青如例月 御礼 參勤 御礼 銀馬代 高力左近大夫

同 織田内記 長崎町奉行 天鶴絨十卷縮緬廿卷 高島四郎兵衛

昨日 御成 付被下物 小袖羽織 伊奈半左衛門 銀十枚 木母寺

銀十枚 道陸 是去頃 御成付被下之

天寿院御方 久永源兵衛 武尾宇兵衛 大久保半四郎

佐藤勘右衛門

中丸御方 大岡次郎兵衛 牧野多兵衛 渡辺弥之助

菅沼藤十郎

右御兩所御屋敷御近所火事出来候はば早々欠付火急二て御供

仕可然方江御退被成候様二可仕旨也

一 夜廻之面々被 召出火事之節早々其場へ罷出縦火付二無

候共不審之者在之、召捕可申由也

本間七左衛門事植村帶刀与頭松平彦大夫跡役成

大川喜左衛門事中西圖書与頭二成江

同二日雨天 久永源兵衛 武尾四郎兵衛 大久保半四郎 佐藤勘右衛門

大岡次郎兵衛 牧野多兵衛 渡辺弥之助 菅沼弥十郎

御留守居引渡在之

同三日青如例年 御連枝方諸大名御礼有之

御暇 小袖二羽織 柳生飛騨守

同四日卯刻地震 評定所式日延引

同五日青於 御座之間 牧野佐渡守 京都御暇 金廿枚小袖五

羽織御馬一疋被下御用等被 仰含之

同六日小雨 於評定所式日寄合伊豆守出座

尾張殿御息女猶姫口中被痛付而 上使本多土佐守被遣之

同七日青宮中別条無之

同八日雨天 牧野佐渡守食傷以外付而老中相越之

同九日青午刻 黒書院 御囲江 出御酒井讚岐守被為

(日録は高野山拾多?)

召 御茶被下手前内藤出雲守役之御料理御相伴被下於 御次

之間老中御料理被下

御圍 出御 道具

一 御掛物 恩断 江月加 兩筆 土井大炊頭此已前上ル

一 御茶入 大隅 肩衝 井伊掃部頭此已前上ル

一 御花入 岐之堂 青地 稲葉美濃守今朝上ル

一 御釜 信濃 一 御水指 新物

一 御茶碗 新物 一 御茶杓 同

一 御香箱 青地 稲葉美濃守今朝上ル

一 御炭取 フクベ

三月十日青巳刻御表 出御 伺公之面々 御目見

同十一日青巳刻 御黒書院 出御 參勤御礼在之

金馬代 永井右近大夫 銀馬代 本多下野守 中川修理大夫

御暇 小袖六羽織 永井日向守 同五羽織 永井伊賀守

同四羽織 平野権平 同五羽織 尾張殿家老 竹腰山城守

御鉄炮頭坪内惣兵衛御役御免跡役伴又左衛門被 仰付御書院

番戸田備後守組都筑弥兵衛事御徒頭坪内又左衛門跡役被

仰付坪内惣兵衛隠居被 仰付領知無相逢又左衛門へ被下又左衛門取

来候御切米惣兵衛へ被下

同十二日 雨降 巳刻二丸 渡御於評定所式日豊後守出座

御被官大工吉本加兵衛 銀十枚被下是駿州所々修復被遣之

同十三日 雨風吹 營中別條無之

同十四日青榊原越中守駿州久能へ御暇小袖二羽織被下

増山彈正少 殿中招之 紅葉山火消被 仰付之

同十五日青如例月御礼有之 參勤之御礼

銀馬代 木下兵部 同 青木民部

同 備前衆 高原喜内 鳥目 大和代官 小野長左衛門

同 内記改 同作之丞 箱肴 美濃番衆 高木権右衛門

同 同四郎左衛門 同 同 藤兵衛

一束一本 醫王因 本多内記招之侍出雲守 水戸中納言殿息縁辺被 仰出

神保左京 沼野新五郎 甲州在番 齋藤頼母

本堂源七郎 下館在番右可被遣者也

水戸黄門登 城息女縁辺事被 仰出御礼也 牧野佐渡守

近日帰京付於 御座之間 御目見

御伽羅 五十五女 御羽織一被下候

同十六日青巳后刻西丸 江 渡御 彼地御馬上覽未刻 還御

同十七日青紅葉山御宮 御名代美濃守參詣

同十八日青巳刻御表 江 出御伺公之面々 御目見

御納戸与頭松永太郎左衛門老病付 跡役浅井猪右衛門被 仰付

同十九日青大名各家来證人交有之

同廿日 青 卯刻 雨止 東叡山 御堂為 御名代伊豆守參詣

小出越中守 神尾若狭守 上野 大猷院様御堂破損付

修復奉行被 仰付

同廿一日青辰刻角田川筋為御鷹狩 出御

御供 稲葉美濃守 久世大和守 内藤出雲守

御留守居 阿部豊後守 土屋但馬守 井上河内守

御留守居 御物数 御拳 鷹五 脇鷹 鷹四十二 鴨一

未刻 還御 植村帯刀組頭本間長左衛門小袖二被下是大御番与

頭被 仰付二条在番被遣 并 銀十枚、先日平番之刻 被下

置之吉田十郎左衛門銀十枚被下是二条在番取人被 仰付也

松平伊豆守 上野御普請場へ相越也

同廿二日青於評定所式日伊豆守豊後守美濃守出座

同廿三日 夜入雨 大久保玄蕃頭二男大学事向後御小姓可被召仕由也

御膳奉行本多金左衛門 向後御小納戸可被召仕候旨也

同廿四日青増上寺 御佛殿為 御名代豊後守參詣

同廿五日青巳刻 御黒書院 出御 參勤御礼

金馬代 松平薩摩守 同 松平伊豫守

同 松平信濃守 同 松平彈正少 同 森美作守

銀馬代 堀美作守 同 仙石兵部少 同 加藤美作守

參府 銀馬代 岡田豊前守 鳥目 彦坂平九郎

御暇 被下物無之 森川伊賀守

京都御暇 金五枚小袖三羽織 野々山丹後守

加州 江 御暇 金 渡辺筑後守 能勢治左衛門

筑後 江 同 江原与右衛門 藤堂主馬

信州 江 同 西尾藤兵衛 荒尾平八郎

右國目付被遣候付御暇也

御弓頭阿部四郎五郎跡 榊原左衛門 榊原左衛門跡 永見権七郎

被 仰付 松平丹波守事大坂御城番被遣是内藤帯刀跡也

徳山五兵衛 山崎四郎左衛門事本庄之筑地奉行被 仰付

松平對馬守參勤 付為 上使美濃守被遣之

同廿六日青巳上刻西丸 江 渡御於彼地御馬 上覽未刻 還御

老中不殘代官町筋見分相越候

堀田上野介湯治御暇被下之

同廿七日青西山十右衛門 天野孫左衛門 伴野長右衛門次男可被召出由佐野

与八郎徒水居屋敷 訴訟廣 可被下候

同廿八日 午刻 西風甚 如例月御礼在之 參勤御礼

箱肴 阿部伊豫守 銀馬代 太田摂津守

銀馬代 小出修理亮 同 津輕十郎左衛門

一束一本 相州早雲寺 川越連絡寺 一束一卷 膳臺寺

御礼葵水引 西地主馬角 同 岡本縫殿助

同 同 宮内少 一束一本 法泉寺

同 真光寺 同 蓮花峯寺 御礼 駒谷右近

右馬頭殿被致疮瘡付 登 城無之仍上使内藤出雲守被遣

同廿九日青右馬頭殿疮瘡付 為 上使久世大和守被遣之

松平左京大夫疱瘡^二付^一 上使板倉筑後守被遣相公へも筑後守被遣是左京大夫疱瘡付^一也 御守衆 大久保豊後守 大森信濃守 松平備中守 安藤備後守被為 召是 右馬頭殿 疱瘡中彼地へ代々相詰様子可致言上由也 御鷹匠頭小栗長右衛門老躰付兼^一 依訴訟隱居被 仰付 知行へ不帰五左衛門へ被下五左衛門取來御切米長右衛門へ被下 水野半左衛門 近藤彦九郎 山田十太夫 日向傳右衛門 大久保權左衛門 西尾小左衛門依老体御役御免 松平陸奥守參勤付為 上使松平伊豆守被遣之

四月朔日青如例月御札有 山口勘兵衛 真田内藏助 筒井内藏 鳥居三郎右衛門 杉浦武兵衛 宅間伊織 可被 召出候由 右馬頭殿疱瘡様躰可被為 聞召 上使土屋但馬守 ヒイト口作物阿蘭陀作花被遣之 同二日 扶兩齋 右馬頭殿疱瘡多出來付 清庵 長徳院 被為 付置之旨 大森信濃守を以被 仰付御菓 御手前 醫師 策庵調合之由 御使役石川弥左衛門病氣 付御役御免

同三日 小雨 巳刻 御黒書院 出御 參勤御礼

綿百把御馬老疋 鹿毛 六歳 松平陸奥守 拾四金馬代 京極丹波守 後 松平對馬守 同 同 丹羽左京大夫 金馬代 戸沢能登守 同 同 淺野因幡守 同 伊東左京亮 銀馬代 鳴津但馬守 同 關但馬守 同 溝口又十郎 同 佐久間權之助 同 山口但馬守 同 小出与平次 家督之御礼 小袖六金馬代 織田山城守 銀馬代 山城守家來生駒三左衛門 同主水

同四日 青評定所式日伊豆守出座

以上使御暇被下候面々 銀五百枚拾百 松平越後守 銀千枚拾百 伊豆守 松平大隅守 豐後守 松平相模守 同三百枚同三十 松平阿波守 伊豆守 松平出雲守 同 同 森内記 酒井日向守 同三百枚同廿 伊達大膳大夫 從駿州 初茄子献上則紅葉山 御宮両 御仏殿へ被遣之

同五日 雨降 巳刻 御黒書院 出御 松平越後守 松平大隅守

松平相模守 松平安藝守 松平阿波守 森内記 伊達大膳大夫 昨日以上使御暇被下為御札登 城於 御前御馬一疋 被下越後守へ御鷹二居御馬一疋拜領也 御暇之節 銀百枚拾十 加藤出羽守 拾十 仙石越前守 銀五十枚拾十 京極飛驒守 銀五十枚 拾五 戸田土佐守

同 大村因幡守 拾五羽織 毛利伊豫守 拾六羽織 木下淡路守 銀百枚拾五羽折 木下伊賀守 同五同 青木甲斐守 銀五十枚拾五羽折 土方奎之助 同四同 谷大学 同 同四同 久留嶋市兵衛 同三同 池田右京 拾五羽織 建部内匠 同 遠山久大夫

同六日 曇時々小雨 巳刻 御黒書院 出御 松平新太郎 松平大膳大夫 松平出羽守 宗對馬守 松平但馬守 立花飛驒守 御目見是昨日以上使御暇被下 御札於 御前御馬一疋 拜領 御暇面々 拾三拾御馬一疋 藤堂和泉守 同 松平筑後守 銀百枚拾十 京極刑部少 同 相良老岐守 同 小出大和守 拾廿 毛利日向守 同五十枚同 黒田甲斐守 同 秋月佐渡守 同 山口修理亮 同四羽織 一柳監物 同三羽織 小出三左衛門 同 本多一学 同 山内大膳 同二羽織 溝口内記 參勤之御礼 銀馬代 本多官兵衛 佐竹修理大夫參勤付^一為 上使松平伊豆守 松平越前守 參勤 上使稻葉美濃守

同七日 青火消番被 仰付

上旬 有馬左衛門佐 伊達大膳大夫 細川豊前守 中旬 戸沢能登守 土方河内守 下旬 新庄越前守 嶋津但馬守 六郷伊賀守 右馬頭殿^上使以安藤佐渡守 探圖書繪三幅被遣之 松平大和守 土方河内守 六郷伊賀守 此三人當年御暇可被下 候処西国大名数多御暇付^一當年^一當地相詰可申由

同八日青品川内膳正 日光十七日 御名代 酒井日向守廿日

御名代被遣 水野監物 土井能登守 拾七日御祭礼役人被 仰付之

松平左京大夫江 上使戸田備後守被遣是被掛御酒湯付而也

同九日早且雨風 未刻雨降 上使播磨守參勤付而為 上使阿部豊後守被遣（日録は上使なし）

同十日青日光御門跡御登山付而 上使吉良上野介を以御菓子一種被遣并 御醫師高木玄濟可被召連之由被 仰出之

同十一日青南風吹 戌刻地震 右馬頭殿今日酒湯被懸付而為 上使阿部豊後守御祝儀被遣 銀五百枚拾二十三種二荷 右馬頭殿江

縮緬廿卷銀百枚 御母儀 桂昌院殿江 銀卅枚 コヤマ 同 乳母 銀百枚 惣女中

銀五拾枚拾五 室賀下総守 同五拾枚拾三 本庄宮内少同廿枚ツ 御守 向坂清左衛門 前田孫一郎 植村五郎八郎

戸田宮内 柘植平右衛門 松平与右衛門 山本七郎左衛門 押田三左衛門 銀十枚ツ 御小姓渡辺平十郎 品川七郎左衛門

小林弥兵衛 川勝権之助 井上左兵衛 永井源右衛門 榊原主水 毛利七兵衛 宮城大学 由良内藏之助

小笠原平右衛門 平野左近 前田三之助 内藤助之進 銀二十枚ツ 御留守居二人 同十枚ツ 御納戸太田利兵衛

鈴木十左衛門 坪内金右衛門 服部庄三郎 内藤久左衛門 山本平三郎 松平八郎左衛門 品川次郎右衛門 鈴木甚之助

同廿枚 御手醫師 策庵 同十枚ツ 御鷹師 五人 長徳院 天徳 宗悦

御臺様ノ 縮緬三十卷 二種一荷 右馬頭殿江 縮緬廿卷 桂昌院殿江 銀拾枚 小山 同乳母

右豊後守持参之 酒井讚岐守 日光御暇 御座之間 御目見 拾二羽織 御頭巾 帯被下之

同十二日青於評定所式日 美濃守出座 午刻 御表 出御伺公之面々 御目見

同十三日西風甚巳刻 黒書院 出御 參勤御礼 拾十金馬代 松平越後守 金馬代 松平下野守

拾五御馬一疋 黒毛四歳 金馬代 佐竹修理大夫 同拾金馬代 上杵播磨守

同四金馬代 御馬三疋 栗毛五才同毛六才青五才 南部山城守 銀馬代 伊達宮内少 同 相良長次郎

同 井上相模守 同 桑山修理亮 御暇拾卅御馬一疋 松平河内守 同 佐竹右京大夫

家督之御礼 金馬代志願 生駒左近 銀馬代二男 生駒權之助 左文字 正真 御脇指 代金十五枚 生駒老岐守遺物

新院御所附 深津越中守 跡役二九御留守居ノ松平彦兵衛 被 仰付五百石御加増被下都合九百石二成

右馬頭殿へ 上使久世大和守生活靈一生鳥奮一番被遣之 稻葉美濃守病氣二付登 城無之

同十四日南風吹 午刻 巳刻 二九へ 渡御 九条殿御息女被田様御菓子 松平彈正少弼 松平河内守娘 松平筑後守

森内記娘 松平兵部少 毛利日向守娘 岡部主税 稻葉美濃守病氣二付登 城無之

同十五日青如例月御礼在之 參勤御礼金馬代 相馬長門守 水野弥兵衛事二九御留守居松平彦兵衛跡役松平市郎左衛門

二九御留守居西尾小左衛門跡役被 仰付之 同十六日青午刻 黒書院 出御 松平丹波守 御目見是當

九月大坂御番被遣其内在在所御暇銀百枚拾十御馬一疋被下之 御暇 拾二羽織勢州御代官 佐野平兵衛 同二遠州 河合助右衛門同松平清兵衛

同十七日青辰刻紅葉山 御宮江 御參詣 御装束 御簾今川刑部太輔 御太刀 松平因幡守 御刀 大久保出羽守

御沓 牧野長門守 即刻 還御 新庄越前守 火消番御免 代 相馬長門守 桑山修理亮 火消番被 仰付

美濃守病氣登 城無之 同十八日巳刻雨 天 日光御祭礼相濟付而御三人方ノ使者被献之

酒井讚岐守 日光於 御宮 法鉢号空印被注進之

同十九日西風吹美濃守病氣登 城無之 同廿日 辰后刻 紅葉山 御佛殿 御參詣 御長袴

御刀 松平因幡守 御沓 石川能登守 即刻 還御 品川内膳正 酒井日向守日光掃於 御座間 御目見

御暇 金一枚 後藤源左衛門 同 茶屋四郎次郎 銀十枚 龜屋永任 同 上柳彦兵衛 同 三嶋屋善兵衛 茶屋新四郎 拾本甚入

同廿一日南風終日吹 巳刻 黒書院 出御 祝言之御礼 拾十 松平新太郎 同五 丹羽左京大夫

參勤御礼 金馬代 松浦肥前守 銀馬代 池田信濃松平新太郎二男則 金二枚知行所被下御札水野周防守 箱肴 稻垣藤九郎 近藤縫殿助

大坂御目付掃 森川小左衛門 猪飼半左衛門 御暇 金一枚拾二羽織御代官 彦坂平九郎 同 小野長左衛門

拾二羽織水野日向守家來 竹本三郎右衛門 同 本多下総守家來 大喜多新右衛門 同 松平日向守家來 伊与田七左衛門 同 石川主殿家來 石田孫助

右是 備中国堺筆有之付 為見分被遣御暇被下之 同廿二日早天より雨 於評定所 式日 豊後守出座

松平飛騨守夜前病死付而松平加賀守へ上使板倉筑後守被遣 同廿三日早且小雨 未刻止曇 水野監物日光掃登 城謁老中是今日可

致 御目見之處魚類御膳被 召上付而御延引 土屋但馬守伯母忌是神尾備前守姉也 稻葉美濃守病氣登城無之

同廿四日青夜中 増上寺 御佛殿為 御名代伊豆守參詣 水野監物日光掃於 御座之間 御目見

同廿五日早且甚雨辰刻小雨巳刻 午頭為御祝儀蒙衆參向御馳走人被仰付（日録は早頭）

勅使 清閑寺一位 勸修寺大納言 溝口出雲守 兩院使 芝山中納言 高倉中納言 織田内記

二条前関白殿 宿坊青松寺 中川山城守 鷹司内大臣殿 宿坊真福寺 浅野因幡守

近衛大納言殿 同 清龍寺 堀 美作守
仁和寺御門跡 同 増上寺之内 織田左近
照高院御門跡 聖護院御門跡 宿坊天龍寺 松浦肥前守

同廿六日青美濃守病氣未登 城無之

同廿七日青於 御座之間酒井空印法鉢以後初^而 御目見
壬潤御掛物 自蓋自讚 若狹盃一枚 金馬代
壬潤御繪 駒山瀑布圖 右差上於 御前御熨斗袍被下
松平丹後守へ 上使以阿部豊後守銀五百枚拾五拾被下

同廿八日^{辰上刻器已刻} 如例月御礼有之松平丹後守昨昨以上使

御暇被下為御礼登 城於 御前御馬一疋被下 參勤御礼
銀馬代 毛利刑部少 同 本多源七郎
御暇 拾二十 鍋嶋加賀守
京都御暇 金五枚拾三羽織 小田切喜兵衛

甲州在番御暇 拾三羽織 神保左京 沼間新五郎
初御礼 銀馬代 美濃守子 小田切三七郎
參府 一束一本 信光明寺

宇治へ御暇 金一枚拾三 中西圖書 金廿兩 櫻井宗恩
銀廿枚 野村休盛 銀三枚 佐々木久齋

三枝能登守組 三嶋清左衛門 酒井飛騨守組 三宅藤三郎
向後御膳奉行被 仰付

稻葉美濃守病後於 御座之間 御目見土屋但馬守御免登 城

同廿九日^{夜中雨降 未刻止} 稻葉美濃守登 城無之是病氣付^而也

同晦日^{南風吹} 高野山法性院為後住釈迦文院同所無量壽院

為後住高宝院右被 仰付 越前永平寺為後住 龍穩寺
被 仰付 朝鮮國 書簡之役憲西堂膳西堂被 仰付
一 勅使 御馳走溝口出雲守雖被 仰付差合^二付代新庄越前守被仰付

五月朔日^{雨降 雨降 雨降} 如例月御礼在之

祝言御礼 拾六 松平出羽守 同五 松平大和守
湯治帰 箱肴 堀田上野介 同 永井越中守
下館御番御暇 拾三羽織 本堂源七郎 齋藤頼母
入御之節 御黒書院 御着座曾我太郎右衛門被 召出

右馬頭殿御家老^二牧野越中守跡役被 仰付旨被 仰出
御加増二千二百石被下都合三千石^二被成被為附且又惣領權之丞

儀^ハ御旗本可被召置^二男喜左衛門
右馬頭殿^江被為付置三男七兵衛追^而可被召出以來御用儀
於有之^者御直^二可致言上之由

御目付大岡忠四郎被 召出曾我太郎右衛門跡役新御番頭被 仰付
右馬頭殿^二上使伊豆守豊後守被遣太郎右衛門家老被 仰付
之由被 仰出^并彼家中引渡也

同二日^{時々晴午刻小雨即止未刻少々雷 小雨申刻甚雨車輪溜雷甚也} 美濃守病氣登 城無之

同三日青松平和泉守 青山因幡守 森川伊賀守 堀大工学
當秋大坂加番可被遣旨可致用意由也 酒井内記 蒔田權佐
高木吉次郎駿州加番可被遣由也

照高院殿 聖護院 當地參向付^而為 上使酒井雅樂頭
吉良若狹守被遣之大岡忠四郎組中引渡在之老中出座
今朝五万石以上之諸大名ノ端午御祝儀献上之

同四日^{辰刻青白刻雨風未刻 強申刻甚風夜ノ子止} 仁和寺御門跡鷹司内大臣殿

近衛大納言殿當地參向付^而為上使雅樂頭吉良若狹守被遣之

同五日^{青南風甚申下刻 雲向雨夜八止} 巳刻御黒書院 出御 上段 着御

右馬頭殿 御對顔雅樂頭披露御座之御左着座老中
及挨拶退去但 右馬頭殿 御病中不及登 營
御白書院 出御 水戸黃門尾張黃門 紀伊相公
徳川右衛門督 松平左兵衛督 保科肥後守 松平右京大夫
井伊玄蕃頭 保科筑前守 老入^ツ御礼申上候

御礼 山玉別當 最教院 御祓 同神主 日吉大膳右過^而
大廣間 出御石大廊下高家衆 詰衆 奏者番其外
御近習之面々並居 御通懸御礼申上候

中段 着御御礼次第在江戶之諸大名 御目見

金知院 知足院 御禮申上 入御之節御白書院襖障子
取之御縁類 御鞍一首 井関太郎次郎此外御扶持被下諸職
人御礼申上 二条前関白殿當地參向^二付為 上使雅樂頭
吉良若狹守被遣之 美濃守病氣登 城無之

同六日^{夜中小雨既刻 北風夜入雨風止} 勅使兩院使參向^二付為 上使雅樂頭

吉良若狹守被遣自分參向公家衆上使被差遣之

阿野大納言^{津田平左衛門} 鷲尾大納言^{川口源兵衛} 正親町大納言^{美水平左衛門}
四辻宰相^{水野庄左衛門} 千種宰相^{加藤平内} 中山宰相^{馬形多源七}
花園三位^{桑山猪兵衛}

同七日^{夜中小雨 巳刻止} 上杖宮内大輔品川内膳正吉良上野介公家衆^江
被遣是明日 御對顔可被遊由也

同八日青今日公家衆御對顔之儀御延引明日御定

午刻御表 出御於 御白書院公家衆 御對顔之御作法
被 仰付候

同九日^{早且曇巳刻 小雨未刻北風夜入甚} 巳刻 御白書院 出御御裝束 上着御

御褥御座疊御刀掛無之 御太刀本多土佐守 御刀松平因幡守
一 從 禁裏御太刀目録黄金三枚 清閑寺一位持出
一 從 仙洞右同斷 黄金二枚 芝山中納言持出
一 從 新院御所 右同 高倉中納言持出
一 女院御所ノ黄金一枚 勅修寺大納言持出
一 親王御方ノ御太刀目録黄金一枚 清閑寺一位持出
一 女御御方ノ黄金二枚 芝山中納言持出

一 何も於上段 御頂戴相濟次自分御礼
一 紗綾三卷銀馬代 清閑寺 勅修寺 芝山 高倉
一 次於上段御礼 金入金織十卷銀馬代 二条前関白殿
一 段子十卷銀馬代 鷹司内大臣殿 瀑十疋 同

近衛大納言殿 同 御門跡方三人右両度共出座
御對顔是自分継目^并御本丸御移徒御祝儀也次自分
參向公家衆撰家門跡方 勅使 院使家来御礼申上
美濃守病氣登 城無之

五月十日青参向 勅使 院使今日東叡山増上寺へ参詣

以上使吉良若狭守被遣之 御樽一荷 蠶一二条殿 鷹司殿
近衛殿 御樽一荷 虫草二箱 御門跡方三人被遣之
御樽一荷 蠶一勅使 兩院使 今川刑部大輔以被遣之

同十一日午前小雨 西刻止 松平加賀守 松平淡路守忌明登 城

同十二日早且小雨未刻止 西刻小雨甚夜入止 明日公家衆御馳走御能被 仰付二付

参向之公家衆御門跡方へ上使被遣

同十三日早且北風雨降 未刻小雨夜入止 今日雨天 付御能御延引明日可被 仰付由

撰家 御門跡方 勅使 院使 上使吉良若狭守被遣

同十四日青今日参向之公家衆為御馳走御能被 仰付

辰后刻 大廣間 出御 御長袴 上段 着御
勅使 兩院使 二条前閤白殿 鷹司内大臣殿
近衛大納言殿 仁和寺御門跡 聖護院御門跡 照高院御門跡

水戸殿 尾張殿 紀伊宰相殿 右馬頭殿 御對顔
御能見物可有由被 仰出候
御簾中 御小姓 御能役 酒井雅楽頭

式三番 權之丞

弓八幡 親世 權右衛門 源兵衛 三郎兵衛
五兵衛 又三郎
兼平 十太夫 權十郎 源七 忠次郎
六藏 源右衛門 兵藏

江口 金春 六右衛門 清五郎 彦九郎
三介 清左衛門 又右衛門 吉右衛門
飛雲 金剛 彦太郎 六之丞 又右衛門 兵三郎

祝言 十郎兵衛 大郎次郎 兵三郎
連哥盜人 仁右衛門 傳右衛門 栗田口 佐左衛門

狐釣 弥太郎
三番濟 御中入 此間 要脚 廣蓋 被行之
一折 二条 鷹司 近衛 包袋十 御門跡方三人右被遣之

於 御黑書院吉良若狭守披露之御白書院上段 御門跡方
撰家方 同下段 勅使 兩院使 七五三御饗心 柳之間
参向之公家衆 金銀御料理 於菊之間 菩提院前大僧正

真乘院前僧正 若王寺 勝仙院 御振廻
御黑書院於西湖之間御三人方金銀御料理也

御圍間 左典殿 金銀 御料理 右典殿 病氣無登 城
於竹之間 本願寺門跡 同庖方 紅葉之間 御譜代大名
於檜之間 北面青侍右御振廻濟未刻大廣間重

出御御能初 相濟 御對顔退去也

同十五日夜半小雨西刻止 西風吹 勅答被 仰出付登 城有之

已上刻 御白書院 出御 御裝束 上段 着御
清閑寺 勅修寺 芝山 高倉為 召 禁裏 仙洞
新院御所 女院御所 親王方へ 御返答被 仰出 自分御暇被

下之 銀二百枚綿百把 清閑寺一位 勅修寺大納言
銀百枚拾十 芝山中納言 銀百枚拾六 高倉中納言

同 阿野大納言 鷲尾大納言 正親町大納言
銀五十枚拾十 四辻宰相 中山宰相 千種宰相
花苗宰相 銀五十枚拾六 姉小路中將 銀五十枚拾五

今城治泉中將 銀五十枚 楠筒少將 下次泉少將
富小路兵部少 右過 柳之間老中出座 地下人御暇被下

銀十枚拾二 一条殿使者 二条殿使者 知恩院門跡使者
勅使 兩院使家来共へ被下之美濃守病氣登 城無之

同十六日甚北風已上刻青即刻 曇午下刻大雨降 以上使撰家御門跡方御暇被遣之

銀拾枚綿三百把 近衛大納言殿 銀五百枚 仁和尚御門跡
豐後守 照高院御門跡 同 聖護院御門跡 右六人御方
来十八日光山へ御参詣道中御馳走無之家来共へ 御暇

被下被下物有之
一 今川刑部大輔 上杖宮内大輔 兼松下総守 日光被遣是
撰家門跡方参詣也

一 中山勘兵衛加藤權右衛門府中 御馬買可被遣由也

同十七日曇已刻 小雨夜中止 為 御名代 紅葉山 阿部豊後守参詣

今日 勅使 兩院使當地發足付彼御馳走人登
城謁老中 照高院門跡へ 上使吉良若狭守黄金十枚
被遣是當地之山王歌仙御調付也

同十八日未刻小雨 即刻止 銀三百枚綿式百把 西本願寺 同百枚拾廿

扇丸其外家来五人被下物有 上使阿部豊後守を以
御暇被 仰出

稻葉美濃守所勞駭無之旨及 上聞在所へ罷越入湯仕後々
可懸保養之旨為 上使本多土佐守被遣為御礼息丹後守
登 城

同十九日午前大雨降 申刻止 撰家門跡方御馳走人今朝當地發足二付

登 城謁老中
觀世座之猿樂御暇被下物有之銀卅枚拾四 觀世大夫
銀廿枚拾二 喜多十大夫 其外役人被下物在之

同廿日青已刻 紅葉山 御堂 御参詣 御刀 松平紀伊守
御沓 石川能登守 御先 酒井雅楽頭 御供 松平伊豆守
阿部豊後守即刻 還御
松平左兵衛督息女夜前病死是 紀伊垂相御孫子也

同廿一日青服部左之助 上り屋敷 伊沢隼人正被下也

同廿二日已刻雨天 夜中止 老中不殘 松平陸奥守普請場へ相越

同廿三日雨天 小栗五右衛門 殿中 招父 長右衛門御預 御鷹無
相違御預由也

一 松平阿波守帰国付 為御礼以太田九郎右衛門羅紗五間御樽着
献上謁老中退去

同廿四日小雨 辰后刻紅葉山 御佛殿 御参詣
御刀 松平因幡守 御沓 大久保出羽守 御先 酒井雅楽頭
御供 松平伊豆守 阿部豊後守 即刻 還御

一 金地院登 城是 公帖之御用被 仰付也

同廿五日早且雨家刻止 小雨及暮止下刻地震 於評定所式日伊豆守出座是四日十二日廿二日依延
同廿六日青南風吹已刻 御黑書院 出御 参勤御礼在之

金馬代 秋田阿波守 銀馬代 金森長門守
箱肴 土屋民部少 初御礼時服三 銀馬代 伊達市正
家督御礼 時服十 金十枚 酒井左衛門尉

来国行御脇指 代金八十枚 真壹一 酒井撰津守遺物

銀馬代 左衛門尉家来 松平市郎左衛門 石原平右衛門 水野武兵衛

疋田一右衛門 參府 銀馬代 松平丹後守 同 石川土佐守

同 中坊美作守 甲州在番 同 安藤内藏介 秋浦市右衛門

二条在番 銀馬代 戸田淡路守 加々爪甲斐守

兩組中 御暇銀百枚 時服十 中川山城守

一 以上使 水戸殿 尾張殿 巢鷹被遣之

同廿七日 甚雨 申刻々 曇夜 入雨天

台覽 未刻 還御 已后刻西丸へ 渡御彼地御馬

松平伊豆守東叡山御普請場へ相越

同廿八日曇如例月御礼在之 參勤御礼在之

銀馬代 溝口信濃守 箱肴 森川伊賀守

二条在番 銀馬代 加々爪甲斐守 是去廿六日御礼節煩故也

初御礼 時服五銀馬代 右近三男 小笠原彈正

同三同 老岐守三男 小笠原外記

松平越後守焔国付 以本多七左衛門焔燭五箱塩龜献之使者御礼

三束二卷 京大佛 知積院僧正 一束一卷 三州 松應寺

一束一卷 越前後住 永平寺 二束二卷 高野 無量壽院

同 同所 宝性院 一束一卷 惣檢校 並川檢校

同 并知 同 宗桂 同 算哲 同 智哲

御暇 銀五拾枚時服五 金地院 同廿枚時服五ツツ 若王寺 勝仙院

(廿九日の記事無し 日録は無別条)

同晦日青美濃郡代岡田豊前守招之式千石御加増被下都合

七千石被成御勘定頭村越長門守跡役被 仰付

曾我太郎右衛門被為 召去頃被下候御加増之御書出被下之

六月朔日青如例月御礼有之 參勤御礼

銀馬代 溝口金十郎 下館在番 銀馬代 田中内匠

堀田五郎右衛門 大坂在番御暇 金五枚時服五羽織 大久保右京亮

同 池田帶刀 銀拾枚時服二 兩組頭式人銀拾枚 兩組中

在番被遣 大御番之面々侍嫡子御礼申上所謂

鳥目百足 勘右衛門子 第十郎子 山岡又一郎 七郎左衛門子 鈴木孫四郎 傳右衛門子

竹内新助 小左衛門子 坂本久五郎 与右衛門子 青木傳十郎 傳右衛門子 留田傳十郎 傳九郎子

太田八十郎 遠山万吉 三郎右衛門子 大井八十郎 傳九郎子 小宮山七郎左衛門 吉左衛門子

松平吉十郎 善大夫子 大久保權之助 七兵衛子 中沢半五郎 吉左衛門子 門奈市十郎 門奈市十郎

一 井伊玄蕃頭被為召是領分御暇鷹一居馬提御馬一疋被遣

同二日 未刻地震 酉刻 黒書院 出御 並河檢校被 召出

平家被 仰付之 腰越 土佐坊 小原入 三句結依之

阿部豊後守 久世大和守 内藤出雲守 土屋但馬守登 城

岩船檢校出仕 平家果 而 並河菊之間退之豊後守出座

雖為老平家能仕候由 御感之由傳之刻銀二十枚時服二

被下帰京御暇被下

同三日青酒井空印登 城於 御前鷹二居拜領

横田甚五郎 松平助之進 大坂御目付代可被遣候由

同四日青於評定所式日豊後守出座

松平安藝守焔国付 而 以使者段子五卷被献之謁豊後守退

去山内遠江守今朝病死之由松平對馬守注進

老中退去以後 秋田安房守御普請場 江 被相越

同五日 申刻々雨天 巳刻 二丸 渡御

松平相模守焔国付以川毛織部羅紗五間御肴一種被献之

謁豊後守 逢明院 普門壽院 兩僧高野学侶

生越 龍穩寺後住前橋龍海院被 仰付 豆州 足柄寺

新米持參紅葉山 御宮上野 御堂増上寺 御佛殿へ被備之

同六日 雨天午刻止 戸田淡路守 加々爪甲斐守 兩組大御番衆二条在番

中御改有之 伊奈兵藏が新米献上

甲斐庄喜右衛門昨夜病死

同七日 雨天 殿中別条無之

同八日 時々小雨 松平大和守母儀今朝死去 寄合堀田五郎左衛門昨夜病死

同九日 時々小雨 巳刻黒書院 出御 參勤御礼在之

銀馬代 松平遠江守 時服五金馬代 戸田采女正

銀馬代 井伊兵部少 同 青山因幡守 金馬代 浅野内匠頭

銀馬代 本多飛騨守 同 真田伊賀守 同 戸田伊賀守

同 菅沼主水 湯治焔 箱肴 水野備後守

御加増御礼 金馬代 本多土佐守

初御礼 初御 天野傳五郎 孫左衛門子 十郎右衛門子 西山八郎左衛門 兵右衛門子 深津左門 傳右衛門子

(日録は冒頭にあり) 高尾与一郎 鳥目百足 市右衛門子 高井三右衛門 傳右衛門子 森川六左衛門 源六子

久保三左衛門 七右衛門子 鈴木源太郎 安兵衛子 山本弥五右衛門 源六子 小笠原一之丞 左衛門子

村上平十郎 兵左衛門子 榎原半左衛門 源兵衛子 恒岡金兵衛

一 巳后刻 二丸 江 渡御

同十日青京大佛 知積院僧正 御暇 銀三拾枚時服三被下

右馬頭殿痲瘡御快氣ニ付来ル 十二日可有 御對顔之由

依在之也

巳后刻 二丸 江 渡御

同十一日 時々小雨 於評定所式日伊豆守豊後守出座是明日御用之義

依在之也

同十二日 時々曇申刻 雷少々雨降 於 御座間 右馬頭殿病後 御對顔

時服二十 金馬代被献之 御熨斗被進 御吸物御盃頂戴

貞宗御脇指 代金五十枚 右馬頭殿 拝領之

右馬頭殿が 御臺様へ綿百把被献之

雅楽頭 血忌御免登 城

同十三日 南風吹 巳刻御黒書院 出御 御暇被下

御鷹二居 御馬一疋 松平右京大夫

時服三十 御馬一疋 小笠原右近大夫 同 本多内記

同廿 同 松平下総守 同十御馬一疋 牧野飛騨守

同十 水野出羽守 同十羽織 岡部美濃守

同 本多越前守 同六羽織 松平若狭守

同十 溝口出雲守 同 諏訪因幡守

同五羽織 松平將監 同 新庄越前守 同 堀美作守

同 稻垣美濃守 同 四羽織 丹羽式部少 同 細川豊前守

同五同 三宅隼人 同 三同 山崎勘解由

水戸中将殿 御參勤付^而為上使阿部豊後守被遣之

同十四日 小雨 巳刻 御黒書院 出御 參勤之御礼

時服五金馬代 水戸中将殿

銀馬代 中将殿家来 松平志摩守 川澄勘解由 土井甚弥

寛吉兵衛 雨宮五兵衛

一 御連枝方 国持大名へ 端午之御内書被渡使者時服被下

同十五日青明十六日 御嘉祥付^而例月之出仕無之

山王祭禮在之辰刻三丸 渡御 上覽

同十六日 小雨 巳后刻 大廣間 出御 嘉祥之御祝儀

如例年相濟 御菓子頂戴退去

松平陸奥守御堀普請被 仰付上柳原坊主衆屋敷近所

堀上候土置之付^而坊主衆早々罷立イツク成共小屋懸

可罷在由替地被下内兩國橋前明地御借可被成旨也

同十七日 紅葉山 御宮為 御名代 松平伊豆守參詣

同十八日 午刻向雨 巳刻西丸へ 渡御午刻 還御

火消番 町野助左衛門 殿中招在所御暇被下之

岡部丹後守組依田小隼人 松平左近大夫組内藤源左衛門招之

関宿々鱧鮪迄御堀埋申付^而堀中奉行^下

同十九日 未刻夕立雨 今度御堀普請付^而上柳原罷在御敷寄屋坊主衆

屋敷^江 土上^ケ申付^而早々罷立何方^ニ成共小屋懸^テ可申旨替地被下

内^ハ兩國橋前明地可被為借候定

同廿日 時々雨天 為 御名代紅葉山へ 松平伊豆守參詣

巳后刻 二丸へ 渡御

同廿一日 小雨 御使役妻木庄右衛門 御前被 召出長崎奉行

甲斐庄喜右衛門跡役被 仰付之

同廿二日青於評定所式日豊後守出座

巳刻 二丸へ 渡御

同廿三日 小雨 巳刻 御黒書院 渡御 病後御礼 松平左京大夫

參勤御礼 銀馬代 堀丹後守 同 堀大学

隱居之御礼 時服五銀馬代 兼光御刀代金廿五枚 織田出雲守

銀馬代 織田左衛門佐

御暇 時服六羽織 戸田左門 同 四羽織 内藤撰津守

參府 銀馬代 八木但馬守

御加増御礼銀馬代 曾我太郎右衛門 同 同喜左衛門

宇治掃 中西圖書 櫻井宗恩

天紳御代官 參府 大緒五筋 鈴木伊兵衛

一 松平新太郎帰国付^而以湯淺民部御樽肴献上使者 御目見

一 未上刻大坂々次飛脚到来是^ハ十八日彼地 御城中^江雷

落 御城中 矢倉等所々破損之由注進之其注進次第

当月十八日西下刻大坂御城中青屋口焰硝鉄炮詰置

候三間半梁拾六間之御蔵へ雷落御蔵候刻車

軸之鉄炮之薬式万九千八百八十五貫五百目 鉛玉大小四十三万

千七拾九 火繩三万六千六百四十筋右之通飛散近辺之

石材木不限大小^ヲ五町六町或七町拾町宛飛依之近

所人民 打殺或手負數多在之に今行方不知者有之

由其上 御天守破損^并御殿矢倉數多大破多門引橋クク

ケ方々^江飛散石垣崩詰置鉄炮所々^江落失不殘

ツフル 山里丸矢倉小屋共ツフレ候市正曲輪加番衆小屋不殘

崩土岐山城致過家来之者四五人相果過人數多在之

岩城伊豫守少過仕家来者廿人余相果内三人家来八十

人余過仕^ハ小笠原土佐守家来十四人相果四拾与人過仕

御城外御役衆屋敷与力同心町屋大形破損町屋千四百

八拾一軒余破損仕三人相果 保科彈正忠 安部撰津守

屋敷ツフレ申候 内藤帶刀 本多豊前守 中根日向守

屋敷^并御番衆屋敷大方破損 内藤帶刀 堀三右衛門

本多豊前守 中根日向守 保科彈正忠 安部撰津守

家来^ハ過無之由注進候

嶋田久太郎事豊後守宅招之大坂雷落破損付^而為見分

可被遣問其仕度可仕候

同廿四日 時々曇午刻 増上寺 御佛殿為 御名代 松平伊豆守

參詣 嶋田久太郎 御前被 召出大坂為見分被遣

御暇金三枚人馬 御朱印被下則當地發足

大坂雷落^ニ付^而為伺御機嫌御譜代大名登 城国持大名

使者献上之

上柳原坊主衆罷立候付^而當分屋敷無之間久世大和守本庄

屋敷借可申候 山崎四郎左衛門 徳山五兵衛方へ被下知之

同廿五日 時々小雨 高木伊勢守招之大坂雷^ニ付見分被遣用意

可仕由

同廿六日青大坂雷^ニ付^而大御番中根日向守組 河合次郎兵衛

本多豊前守組佐々木庄五郎罷下彼地様子於 御前可

言上

美濃衆御暇 時服二羽織高木内記同三羽織 同権右衛門

同二羽織 同四郎左衛門 同 同藤兵衛

△高木正兵衛 松平大膳大夫帰国付^而以兒玉圖書羅紗五間御樽肴被献之

使者豊後守△以加藤平内鮎鮪一桶被下之

午刻 二丸へ 渡御

同廿七日青 當中別条無之

同廿八日青 如例月御礼在之

參勤御礼 銀馬代 京極主膳正

家督之御礼 時服三金馬代^{尾張殿家来隼人正子} 成瀬信濃守

後住之御礼 一束一卷^{越生} 龍穩寺 同 高野 普門壽院

同 邊明院 一束一本 遊行上人 同 南部 成身院

一束一卷^{高野} 大徳院

西本願寺帰京付 下間少進法印御樽肴被献之使僧御礼

同廿九日青土岐左京大坂御暇是山城守過仕^二付被遣時服三羽織

一被下豊後守出座

宗對馬守掃国付以藤坊忠右衛門虎皮式枚御樽肴献上

謁伊豆守

午刻 二丸^江 渡御

七月朔日^{甲寅 辰} 辰后刻 御黒書院 出御御連枝方

御三人方 保科肥後守 松平加賀守 右順々 御目見終

御白書院 渡御 如例月御礼在之次^二

參勤御礼 金馬代 小笠原大和守 銀馬代 太田原備前守

祝言相濟御礼 時服四 松平和泉守 同三 堀美作守

是和泉守娘堀亦七郎へ縁辺^二付也

病後御礼 南部山城守

松平大隅守国元^江參着付^而種子嶋三郎四郎以羅紗五間御樽肴

被献之使者 御目見

大坂加番御暇 時服六羽織御馬一疋 松平和泉守 青山因幡守

同三同 森川伊賀守 堀大学

右御礼過^而下段間之襖障子開之寄合之面々一同御礼御量縁

一束一本 大先達山本坊 右終^而 入御

松平出羽守国元參着付^而棚橋將監以卷物五御樽肴被献之

於檜之間 豊後守出座

一 縮二端 ホ夕絹一端 雅染頭 縮一端 ホ夕絹一端 伊豆守 豊後守被下之

同二日^{乙卯申且暮} 巳刻二丸 渡御未刻 還御

同三日^{丙辰時々曇雨} 巳刻^{北風申刻止} 松平飛騨守遺領高七万石 同大蔵少^二無相違

被下之旨老中被 仰渡之 右馬頭殿家臣牧野美濃守^{越中守力}

跡式被 仰付知行高五千石之内三千石牧野帶刀

貳千石同兵部右分被下由兵部義^レ如前之 右馬頭殿^二御奉公

可仕旨被 仰付之

大坂^二而 大御番本多豊前守組間宮次兵衛 中根日向守組

石原四郎右衛門右兩人今度大坂雷落破損之所々委細目録

記持參之

去月廿八日卯刻^二大坂發足夜亥刻到着^三附^而今日登

城於 御座之間 御目見 言上

松平加賀守登 城是^レ飛騨守跡式無相違大蔵少^二被 仰付

御礼謁御老中退去

保科肥後守 酒井空印登 城朽木民部少病後登 城

同四日^{丁巳酉酉刻^レ曇} 於評定所式日寄合伊豆守出座

同五日^{戊午青} 嶋田久太郎大坂^去朔日^二出立當午刻發足夜前

丑刻當着付^而今日登 城則 御前^二被 召出

彼地養子御尋之一々言上 御前雅染頭伊豆守豊後守

被為 召今度大坂御城破損修復之儀急度可被 仰付也

然^レ暑氣之節別^而大儀雖被 思召為要抱之地之条

伊豆守豊後守兩人之内以圖取老人彼地へ相越諸事

見計可申付由 上意依之 御前各退出御次之間

彼圖取之時^二伊豆守取當之候はば此旨言上可參由被

仰出伊豆守大坂^江就被遣鈴木修理儀も伊豆守相添可罷

越之由豊後守被傳之

午刻二丸 渡御未上刻 還御 水戸殿 尾張殿

紀伊宰相殿 上使久世大和守以大坂へ伊豆守被遣之旨被

仰出依之後刻使者上^ル 左馬頭殿 右馬頭殿へ本多

土佐守以右之段被 仰遣之

一 上総介殿家来戸田權兵衛病死之由諏訪因幡守方々注

進之依之信州諏訪へ為檢使御徒目付小泉源右衛門

深沢新右衛門被遣則御暇銀五枚被下御傳馬二疋^ツ

御朱印被下之

七月六日^{己未雨午刻甚車輪流未刻迄} 如例年 御一門方々七夕御

祝儀上^ル於柳之間謁豊後守退去

同七日^{庚申辰刻^レ南風雨} 巳刻御黒書院 出御白御帷子御長袴

左馬頭殿 右馬頭殿 水戸殿 尾張殿 紀伊宰相殿

水戸中將殿 徳川右兵衛督殿 保科肥後守 保科筑前守

右順々御礼終^而

御白書院 渡御 在江戸諸大名御礼相濟次

香包^二 仁和寺御門跡使僧 御目見過^而下段間襖障

子開之惣寄合之面々一同 御目見終^而 入御 例年^者

大廣間^二而惣御礼雖有之今日風雨甚敷故御白書院に

諸御礼有之 堀田内蔵助知行三千石堀田上野介^二被下候

是^レ南部山城守養子^三仕内蔵介取来知行也病死付^而也

御勘定方佐野主馬長谷川左太夫大坂^江可被遣之間兼^而用

意可仕旨被 仰付候 三枝平右衛門 日向傳右衛門 兩人

屋敷之隣明地在之之何も被下之内々御訴訟付^而也

老中不殘 御臺様御禮^二相越已刻退去

同八日 幸西晴 美濃郡代岡田豊前守跡役之儀大御番安藤伊賀守

組頭名取半左衛門 御前^二被 召出三百石御加増都合
八百石^二被仰付

一 今度知恩院御門跡増上寺へ御学文^二御下向依之於
彼寺内別家^二方丈相立則為奉行人進物番石谷七之助

牧野内匠頭組織田市左衛門 右兩人被 仰付
午上刻 二丸 渡御未后刻 還御

一 御醫師 久志本式部事今度伊豆守大坂へ被遣候間相添
彼地可罷越候由被 仰付但式部兼伊豆守仰付^二付^一

伊豆守へ御訴訟申上候処違 上聞今日被 仰付

同九日 壬戌曇未刻^二小雨 申刻^二車輪^一 内々御訴訟申上老躰面々隠居被

仰付知行等分被下 井上筑後守隠居被 仰付
法鉢仕法名幽山^一云 知行高老万三千石之内老万五千五百石

坪内惣兵衛隠居被 仰付法鉢可仕宗法名道悦^一云^二男^一
知行高五千石之内四千五百石 坪内又左衛門五百石 菅沼勘解由

但又左衛門取来御切米六百俵為隠居料永代被下候
秋浦忠左衛門隠居被 仰付知行高八百石伴忠太郎へ無相違被

下忠太郎取来三百五十石隠居免^二被下^一
松平越後守兼^一御訴訟^二付^一 白銀二千貫目被為借之旨

彼家老小栗五郎左衛門 殿中へ招之右之趣伊豆守被傳之^一
同十日 丙寅早且曇午刻^二甚雨 德川右兵衛督殿今度表御部屋立御^一
礼 中納言殿御登 城謁老中退去

當月日光山 御名代大御番頭加々爪甲斐守被遣
堀丹後守火消番被 仰付
午刻二丸 渡御未上刻 還御

佐竹修理大夫老母死去^二付^一 為 上使堀田備中守被遣

同十一日 甲子晴 巳后刻 御黒書院 出御 參勤御礼

銀馬代 細川丹後守 御暇時服十 鍋嶋甲斐守
同六羽織 鳥居主膳正 同三羽織 小笠原彈正

同 太田原主膳 同二同 京極右近

紀伊殿使者 御目見 天野弥三 是^一大坂雷落^二付^一為伺

御機嫌也 加納数馬是^一參勤之伺也
井伊玄蕃頭国元へ參着^二付^一木俣半弥を以高官布

二百端御樽一荷二種被献之使者自分太刀目録を以
御目見右過^一御勝手々 金五枚時服二羽織 大坂へ高木伊勢守

一 御目見終^一 入御
大坂御目付 御暇 金五枚 松平助之進 横田甚五郎

一 縁辺被 仰付 松平越前守姉 飛鳥井中将へ是 松平伊豆守
宅^二越前守家老^一被仰渡 松平淡路守妹 松平越中守へ

同人娘 水野右衛門大夫へ 内藤三之助娘 池田備中守へ^一
大久保右京亮娘 久貝忠三郎へ 大久保荒之助娘

本多百介へ 高井作左衛門娘 井戸権九郎へ 谷大学孫女^一
八丈御代官 御暇 金式枚時服二 谷庄兵衛

一 御目付花房勘右衛門子長病^二付^一 御番等も難成^二而^一 法鉢仕
度之旨内々念願 付可任心之旨今日被 仰出則法名

一 丹と云

同十二日 乙丑晴 於評定所式日寄合豊後守出座
巳下刻二丸へ 渡御未刻 還御

松平加賀守登 城是^一昨日同名淡路守妹縁辺被 仰付御礼
今朝 水戸殿 尾張殿 紀伊宰相殿へ伊豆守被相越

彼家老共登 城

同十三日 丙寅晴西刻^二雨 夜中時々雨^一 別条無之

同十四日 丁卯早且曇終日南風^一
雨時々甚止晴夜中風不止 内藤出雲守姪差合無登 城井上
河内守為 召

同十五日 戊辰早且少々雨即刻^一
止晴南風時々雨 辰后刻紅葉山 御佛殿 御參詣

白御帷子 御長袴 御先 酒井雅栗頭 御供 松平伊豆守
阿部豊後守 御刀 松平因幡守即刻 還御

還御已後 両典厩御三人共參詣為何御機嫌御三人方
使者被上 謁老中退去

一 如例年 上野増上寺^一盆料被遣時服式十

上使伊豆守 日光御門跡 時服十 同人 毘沙門堂門跡

同三 清雲院 同 真光院 同 実成院 同二 覚枿院^一
同 寒松院 同 常照院 銀式百枚時服十^一豊後守 増上寺

方丈 同拾枚 時服二^一役老 同 源意
御勘定方秋田九郎兵衛事但馬御代官中野吉兵衛跡役被 仰付候

同十六日 曇辰刻雨止^一 稻葉美濃守在所掃以後始^二而^一登
城於 御座之間 御目見 押絵十枚緒^一箱有被献之

松平伊豆守於 御座之間大坂御暇被下旨 上意
黄金五拾枚時服十御馬一疋拝領當月十八日當地發足

之由 大坂へ御暇 黄金三枚時服二羽織^一御醫師 久志本式部
同五枚 御勘定与頭 佐野主馬 同二枚 同 長谷川左大夫

銀三十枚 御大工 鈴木修理 銀十枚 同与次郎
女院御所へ金老万兩被進之大坂へ直^二伊豆守持參可^一

仕候由被 仰出
増上寺^一井方量 源意登 城是昨日盆料被遣御礼

謁伊豆守退去

同十七日 曇巳后刻^二甚雨 南風雷未上刻止晴^一 紅葉山 御宮へ御名代阿部豊後守參詣
松平伊豆守 御座之間へ被為 召明日當地發足付^一御用之

儀被 仰含 御召縮御帷子一同白一御單物一御羽織御扇子
式本御團老本匂袋一右 御直^二被下^一 保科肥後守被為召

同十八日 晴申刻^二甚雨 雨天其終止^一 松平陸奥守綱宗年十八常々諸事無作法
付一門家来之輩再三異見等雖申聞一圓承引無之

二付立花飛驒守伊達兵部少^一井家来之者共一味仕當月
頃^一御身^二被立被下候様^一と飛驒守兵部少御老中迄御

内意雖在之兩人被申分何も尤と思召候得共家中輩
一心^二兩人と於為同意可被達^一 上聞申由^二付^一 在所當地

之家老の者共其外諸物頭諸役人等^一到迄不殘主人陸
奥守常々無作法之義家之滅亡と存候間願^一是も兩人陸奥守

俸二才^一罷成も御座候間何れ^二も^一跡式之儀立替被遣
之難有可奉存候旨飛驒守兵部少方迄名連判を以申

越候^二付^一兩人御老中迄彼帖被致披露右之趣被達
上聞之処陸奥守儀為不届之間先逼塞仕可罷在旨上

上聞之処陸奥守儀為不届之間先逼塞仕可罷在旨上

意依之今朝雅樂頭宅へ飛驒守兵部少其外家來之

輩招寄之豊後守美濃守列座右之段々雅樂頭

傳之跡式之儀音重可被 仰出旨次陸奥守へ牛込

筋違橋迄普請去頃音被 仰付其其可申付候由是又

演説之陸奥守へ為上使太田撰津守被遣候其方常々

不作法之義一門 家來之輩一々言上之趣及 上聞

不屈思召閉門仕可罷在候為 上意之旨具ニ可承候由

老中被 仰付撰津守 仰承直ニ參付 飛驒守兵部少

兩人も參會仕陸奥守ニ相加り 上意之趣可承由也

水戸殿 尾張殿 紀伊宰相殿へ 為上使阿部豊後守を

以陸奥守義常々無作法之由一門家老共 言上之上

閉門被 仰付候由被 仰出依之後刻使者上ル悅豊後守退去

松平丹後守国許へ御暇被下參着ニ付使者鍋島玄蕃以

羅紗十間 御着一種被献之於檜之間豊後守出座

松平伊豆守今朝當地寅下刻發足之由東海道筋上京

今朝 水戸殿へ為上使豊後守被遣之 神尾備前守事

病者ニ付 隱居仕度旨内膳へ被 仰渡之

同十九日 晴時々曇 松平陸奥守閉門被 仰付候付而彼国元御目付

として御使番津田平左衛門柘植平右衛門兩人被遣候間用意

可仕旨被 仰渡 松平陸奥守儀段々様子御詰衆御奏者

番諸番頭諸役人之面々老中被 仰渡之是一門家來

言上之由委細被致物語是可被為奉遣候ニ付也

金式拾枚式人扶持通遣 渡辺九郎左衛門 六百石 坂本八郎左衛門

知行不知 納戸 畑与左衛門 三百石 宮本又市

右ハ松平陸奥守家來今朝成敗在之由陸奥守スヌメニ付也

已上刻 二九へ 渡御未上刻 還御

稻葉美濃守病氣ニ付無登 城之

同廿日 早且々小雨未刻北風吹止 紅葉山 御名代阿部豊後守參詣

酒井雅樂頭少風氣ニ無登城 美濃守登 城

同廿一日 北風吹時々小雨止晴未上刻 久世大和守從弟差合登 城無之

同廿二日 雨風甚未上刻止 於評定所式日豊後守出座

御鷹雲雀以上使 御連枝御三人へ被遣候

雨天ニ付 水戸 尾張御兩人何公中将殿ハ為何御機嫌

使者被献之 大久保丹波守今曉頓死

南部山城守以使者初鮭一尺上 禁中へ次飛脚被遣之

同廿三日 南風吹辰后刻雨甚其候止 已上刻二九被為 成未后刻

還御 雅樂頭 今風氣ニ付登 城無之

時服二 米沢御代官 松平市右衛門

同廿四日 晴且ハ雨已刻止 増上寺 御仏殿 御名代阿部豊後守

加々爪甲斐守日光ハ掃參登 城於 御座之間 御目見

同廿五日 曇時々雨止 仙洞御所へ次飛脚を以初鮭被為進之

久世大和守忌御免登 城

同廿六日 辰刻曇其候晴 公方様昨日御風氣之由ニ而 友仙御針上

保科肥後守登 城是ハ為何御機嫌也

同廿七日 青 御針被遊友仙上

同廿八日 晴時々雨申后刻ハ如例月在江戸之諸大名雖礼出仕為 御不例

ニ付 御目見無之御老中謁退去大名以上使

御鷹野雲雀被下 御不例ニ付 紀伊殿 水戸殿

尾張殿 宰相殿 中将殿 国持衆ハ為何御機嫌使者被

献之久世大和守謁

西本願寺依使僧を以為八朔之御祝儀時服三上ル於柳之間

豊後守出座豊後守美濃守退出以後秋田安房阿波守御普

請場へ御越為何御機嫌酉刻老中登 城

同廿九日 甚雨未刻風吹已后刻ハ東風吹甚南風吹

御不豫ニ付為何御機嫌御譜代衆登 城老中退出為何

御機嫌御三人方国持衆ハ使者上

大御番安藤伊賀守組頭森川六左衛門被 仰付是名取半左衛門跡也

申后刻豊後守美濃守為何御機嫌登 城於 御前

御相伴酉後刻退出 朝御膳午上刻被 召上四十匁

同晦日 午上刻東風一通り甚未后刻曇雷ニ也申上刻曇

御三人方国持衆ハ使者上 御老中謁御譜代衆為何御機嫌

登 城老中謁退出

午后刻朝御前被 召上廿七匁為何御機嫌老中西刻登 城

八月朔日 乙酉 晴 如例年御連枝方 諸大名衆譜籍本

登 城 公方様御不例 付御札無之老中出座

公方様御機嫌 能雖被成御座為御養生 出御無之旨被仰渡

依之三千石以上之面々太刀目録を以老中謁格退出終

於大廣間雅樂頭豊後守美濃守 御奏者番列座有て

在国之面々 煩之衆使者以太刀目録上

一 老中 御臺様へ御札 御越依午上刻退去

一 朝御膳辰后刻四拾匁被 召上

老中為伺御機嫌酉刻登城

同日 時々青申刻 為伺御機嫌 左馬頭殿 右馬頭殿

水戸殿 尾張殿 宰相殿 中將殿 保科肥後守其外在江戸

国持大名衆御譜代衆登 城御老中被謁退去御譜代衆へ

公方様御機嫌御快氣為 成御座之間御機嫌伺登

城仕義無用之由被 仰渡之

高野へ御暇 銀廿枚時服二 無量壽院 同 至性院

時服二 遍明院 同 禪南院 同四 普門院

巳后刻朝御前七拾匁被 召上

小池坊隱居被 仰付候跡天王坊被 仰付

日光へ次飛脚到來先月廿八日之晚々同廿九日午刻迄甚

大水出候所々破損之由注進書仮橋坊中之方橋臺之

石垣不殘崩押流諸道具比少も不殘何方 溜申も

未水高 在之 付穿鑿不罷成候又 御佛殿下之御供

所前 手仕候新水道石垣一間余損申候谷養沢水道之

石垣三十五間程崩高三四尺程御座之石垣 勿論道

損し申候同所川よけ二ヶ所押流申候候一間所々

損申候是 奥平美作守此跡被致候所 御座之由右之通

御披見タメ如此候依之彼地へ様子為見分 関兵部

佐藤勘右衛門被遣候

一 酉刻老中登 城是 為伺御機嫌也

同日 終日夜中不 御誕生日 如例年御祝有之依之

御詰衆御奏者番諸番頭諸役人登 城則餅頂戴

為伺御機嫌 保科肥後守 酒井空印登 城空印 於

御座之間 御目見以後御杖被下依之 殿中御免之旨

巳后刻朝御前六拾匁被 召上為伺御機嫌 国持周使者上 老中酉刻登 城伺御機嫌也

同日 早且小雨即下刻止 晴 於評定所式日寄合

豐後守出座

為伺御機嫌御譜代衆保科肥後守登 城御三人方御左典

使者謁老中退出 土岐左京亮大坂へ昨夜罷帰 付登

城謁老中退出 国持衆へ使者上

巳下刻朝御前七拾五匁被 召上老中酉刻登 城伺御機嫌

同日 快晴 巳后刻朝御前被 召上御湯積七拾匁

為伺御機嫌 保科肥後守登 城御三人方御両典の家老

被指上之老中謁 国持大名衆へ使者上 御老中九ッ過大

奥へ被相越老中酉刻伺御機嫌登 城

新院御所へ以次飛脚初鯉一尺被進是 水戸殿上

同日 時々 巳下刻朝御前 御粥被 召上

為伺御機嫌 兩典既 保科肥後守其外御譜代衆寄合衆登

城老中謁退去御兩典御三人方へ使者上 老中出座 酉刻

老中登 城伺御機嫌也

同日 早且雨止 南風吹 巳刻晴 午下刻

為伺御機嫌 御持衆諸大名登

城老中謁但御譜代衆無登 城御兩典御三人方使者上

酒井空印 保科肥後守登 城空印 於

御座之間 御目見肥後守謁老中酉刻登 城伺

御機嫌也

同日 曇上刻 巳下刻朝御膳百目被 召上

為伺御機嫌 保科肥後守 御譜代衆登 城謁老中

退去 国持大名衆へ使者上 酉刻老中登 城伺御機嫌也

女院御所へ 初鯉一尺次飛脚 被為進之

同日 未下刻 巳下刻朝御前百目余被 召上

保科肥後守 酒井空印登 城於 御座之間 御目見

御一門方へ使者上 国持衆へ使者上 何も伺御機嫌老中謁

酉刻 老中登 城伺御機嫌也 御船手頭溝口半左衛門事病死

同日 曇時々雨未后刻 巳下刻朝御前百匁被 召上

為伺御機嫌 保科肥後守御譜代大名衆 寄合登

城謁老中退去御詰衆諸番頭諸役人

公方様御機嫌能被為 成御座之間毎日伺御機嫌に

登 城無用之由被 仰渡御一門方へ使者 国持衆へ

使者伺御機嫌也

御暇 時服二羽織 秋田九郎兵衛

禁中 初菱喰一羽被為 進次飛脚 也豊後守美濃守

退去以後大奥 罷越 酉刻老中登 城伺御機嫌

同日 早且與地小雨午上刻止 晴 巳下刻朝御前百三拾匁被 召上

為伺御機嫌 保科肥後守登 城御一門方へ使者上

国持衆へ使者上 就伺御機嫌 使者之儀 二日程間置可被

差上候旨御目付衆出座被 仰渡 酉刻老中登 城

一 當暮被下御切米三分二内只今半分被下張紙出

一 覺

一 當子冬御切米三分二之内半分只今被下候間二百俵迄 今

十五日迄由良平兵衛山高宇右衛門裏判取之米請取之儀

十六日 十九日迄右兩人裏判取之米請取儀 同廿日 九月

廿日迄可限事

一 例年之通不殘當暮米 請取度面々 心次第可為事

一 万治三子年八月廿三日

同日 雨上刻 雨雨后刻 止晴 雨風吹 於評定所式日豊後守出座

巳下刻朝御前百匁余被 召上

御暇 金十枚時服二羽織 妻木彦右衛門

為伺御機嫌御一門方へ家老衆被献之謁老中御譜代衆

使者上 保科肥後守寄合衆為伺御機嫌登城老中謁

公方様御不例追日御快然付紺番 老中登 城無之

同日 曇時々雨 辰上刻朝御前百匁余被 召上

為伺御機嫌御譜代衆登 城御一門方へ使者上 老中謁

国持衆を使者上ル

同十四日 曇時々雨止晴 已上刻朝御前百廿匁被 召上

稻葉美濃守風氣故登 城無之

同十五日 快如例月御連枝方諸大名登 城雖在之

公方様御機嫌能被為 成御座候得共為御養生 出御

無之旨御老中傳之以後各退去

御小姓組松平伯耆守組松田善右衛門 同小出越中守組駒井次郎左衛門

御進物番桑山主水 蒔田八郎左衛門 右四人被為 召所々土手

破損付修復奉行被 仰付旨 老中被仰渡

美濃守氣色本復付登 城 御目見 上方御代官

五味備前守去九日 頓死之由申来 神尾備前守去頃湯治御

暇被下候処帰参付登 城

同十六日 殿中別條無之

同十七日 午下刻曇雨 紅葉山 御名代豊後守参詣

同十八日 時々雨 御暇 御時絵師 金一枚 榎並勒左衛門

銀十枚 芝辻長左衛門 時服二 榎並次左衛門

禁中次飛脚 初霧一羽被為進是 南部山城守上

同十九日 仙洞御所江初菱喰一羽次飛脚 被遣之

同廿日 前日夜風雨子雨時々辰下刻大風雨 破損大小町方紅葉山

御佛殿 御名代豊後守参詣

今日風雨付被為伺御機嫌 水戸殿 尾張殿 宰相殿

中将殿 右兵衛督殿を使者上ル諸大名衆を使者上ル

美濃守謁 夜入岩船檢校被 召出 御座之間平家被 仰付

根内裏火焼 経政竹生嶋詣

日光山衆徒裏微付一坊 楽人等へ金式百兩被貸之旨常

照院 寒松院 御老中被仰渡 井上河内守 板倉阿波守

被為 召 神田明神四年已前酉年正月十八日 焼失仕付

神主御普請被成可被下旨御訴訟申候處達 上聞為御造営

金式千兩被下候西窪飯倉八幡芝神明向所大破 付金千兩 被下候

同廿一日 晴 真田伊賀守被為 召小石川阿部播磨守上ケ屋敷被下

之旨被 仰渡

公方様弥御機嫌能被為 成御座午后刻御黒書院 出御

時服四羽織 御暇伊勢 八木但馬守 兵衛へ妻木彦右衛門

京 松平彦兵衛 右彦左衛門事依之今日 御目見仕右過

殿中伺公之面々 御目見 入御依之為伺御機嫌

御一門方を使者上

仙洞 御方 新院御所へ次飛脚 初霧一羽被遣

三州岡崎信光明寺為修復料金千兩被下同所松應寺

修復計被 仰付 奥州御馬買 秋山六左衛門諏訪部又五郎

兩人被遣之

同廿二日 晴午下刻曇昨日御表へ 出御付為伺御機嫌

御譜代衆登 城 紀伊殿使者

御暇時服三羽織 荒川甚五兵衛是 左京大夫祝言相濟付

為御礼御樽肴二荷三種被献之 御両典を昨日

御表へ 出御付為伺御機嫌家老衆被献之 国持衆使者

を以登 城仕候由申上候処弥御機嫌克被成御座之間

無用之由御目付衆被申渡

去十八日小倉忠右衛門西丸泊り御番 付脇を遣

御聞 以後令迷惑付 翌十九日御老中 不殘参不調

法之段申上候処御穿鑿之上早々罷出諸事可相改者之

遅参之段千万不届被 思召問門仕可罷在旨急度雖

可被 仰付自分 申候仍逼塞可仕旨御目付中被

仰渡之但大御番頭當番松平豊前守也去頃御鉄炮頭初鹿

野傳右衛門少々虫氣付泊り御番遅参此時野御目付小倉

忠右衛門也然 處傳右衛門遅参之段忠右衛門言上 付傳右衛門

閉門被 仰付是又其時之大御番頭當番松平豊前守也

同廿三日 曇時々雨未下刻 御老中出座有之 諸番頭諸物頭諸役

人御法度書被仰渡之 所謂

去々年を去年迄酒造候儀累年 半分可為旨雖相觸當

年打継雨降洪水 耕作損毛之地有之也今年も 米を賣ふて酒造候儀江戸京奈良堺 各酒之所々其外

諸国在々所々四年已前迄ツクラセ可申勿論新規之酒屋

一切可今後止之若於致違背 給人御代官可為越度

万一蜜々ヲホク造候輩 訴人可出御穿鑿之上其品々

より御褒美之高下在之急度可被下候是又難言を

不成様可被 仰付候彼酒屋 可被行罪科事

耕作損毛之所々百姓可困窮之間不草臥様 入念仕置

可在事

一 従先年如被 仰出萬士民不可成非儀若又作毛不損毛之

所申探手負令雖混 可被行曲事 候事

一 在々所々雖為御鷹場年内よりカカシイタシ麦可クヘキ事

一 鹿猪ヲハセ可申勿論取来所へ猶以可為其通事

右之條々急度可被申付者也

万治三年庚子八月廿三日

同廿四日 未上刻 止後未下刻 増上寺 御佛殿 御名代

豊後守参詣 御暇 時服三 松應寺 同 信光明寺

上野本院御破損 付御普請可被 仰付候 見分船越

伊豫守牧野織部正木原内匠被遣候 及夕日雅楽頭 豊後守

美濃守登 城

同廿五日 晴時々曇 今朝雅楽宅へ松平陸奥守一門中立花飛

騷守伊達兵部少太田撰津守 家老茂庭周防片岡小十

郎大枝兵庫原田甲斐招之陸奥守 隱居被 仰付

跡式之儀美子龜千代 被下先陸奥守弟伊達兵部少

并 国元 罷在候田村右京被 召出兩人 龜千代領分

之内三万石 被下候間兩人 後見可仕候旨

保科肥後守 阿部豊後守 稻葉美濃守 大目付 兼松

下總守出座 上意之趣雅楽頭傳之津田平左衛門柘植

平右衛門兩人雅楽頭宅 被招之 仙臺へ二三日中 罷立候由被 仰渡 保科肥後守御用之儀有之付登 城於

御座之間 御目見

阿部豊後守退去以後秋田安房守御普請場へ相越

同廿六日 晴末上刻地震 菊之間 御書院番頭御小姓組番頭被為

召御老中出座被 仰出、御書院番瀧川長門守組

本知七百石 清藏養子 村瀬藤十郎是、半十郎脇腹也一度 日録は度 ■木原志

原奈養子其 清藏方 養子御小姓組戸田相模守組本

知二千五百石 小三郎養子 村瀬伊左衛門是、多賀外記二男

右兩人知行之出入之公事在之処藤十郎儀不屈、付今日

御改易被 仰付之猪左衛門事無相遣之條如前之 (日録は無相遣)

御番相勤可申候由番頭瀧川長門守戸田相模守被

仰渡但論地五百石被 召上依之猪左衛門二千石被成右公事

發り、前々兩人繼祖父村瀬左馬知行高三千石停

兩人有惣領清藏次男小三郎兩人之内惣領清藏儀父

左馬氣入不申、付小三郎を惣領、申立隠居之御知行分

清藏、五百石小三郎、二千五百石と御前帳、留、雖就清藏

儀惣領之事、有之間小三郎知行高二千五百石之内内證

五百石下直候様と父左馬、付小三郎任其意高之内

五百石分也、公儀内證共、清藏千石、成其後又並加増式百

石取之御前帳七百石被成物清藏美子無之、付右藤十郎

養子仕九年已前死去其節藤十郎コ遺言、只今迄之

内證、取來り候五百石之知行、父左馬、置候間死後

必返之申間敷是、死去雖就知行高之儀兎角遺言

無付死去已後養子猪左衛門我等御前帳二千五百石之高、右

之五百石不足之段依申家來者右之清藏儀公事、付五百石

之知行、出入在之大方可落者之処四ヶ年以前丁酉年

江戸火事、付諸儀本、應知行高御金被下時分猪左衛門

二千五百石之高、惣領藤十郎、七百石之高、押領頭長門守へ

申分私儀七百石之高、御金被下候段御極仕候猪左衛門義

式千五百石之高、押領仕候由承右之五百石、出入御座之間

双方之御頭衆御相談も可有座之脇存候処、為無左猪左衛門

二千五百石之高之積り押領仕候儀、公事、我等負、様

罷成申候間我等御金押領仕間敷と申、付長門守先、

致押領尤之由誰申一圓承引無之、付左様、候はば印

を付可申間御預候様と長門守再三被申、付無

是非預置其金印俣宿所置其所立退依之御穿鑿

之上御奉公仕身之立退事其上知行出入之公事も

未埒明之処藤十郎立退段不屈之由、今日御改易と也

又藤十郎所存、立退候はば頭長門守早々御老中へ可申上左候はば

公事御聞可有此時所存之通申上早速埒明利運、可

仕所立退又、頭長門守、伊佐衛門戸田相模守右無相談不足

か、兩典厩へ為上使稻葉美濃守被遣是松平陸奥守

跡式儀被 仰遣

同廿七日晴大御番本多豊前守組大久保又左衛門伊豆守三宅嶋 (日録は伊豆三宅嶋)

流人被 仰付右委細、不及記今程、御番引小普請入、

伊沢隼人正組在之依之隼人正へ、上意之趣御老中傳之

是、又左衛門召仕之下女、出入在之処御穿鑿之上流人、成

御老中退出以後松平龜千代丸被 仰付牛込筋違橋

迄船入御普請場へ為見分被相越

同廿八日 快晴 御表 出御以前大廊下タマリ、雅樂頭豊

後守美濃守列座諸大名彼所被召松平陸奥守跡式無

相違美子龜千代へ被下旨其趣可存候雅樂頭傳之但

上意、陸奥守閉門被 仰付段氣遣、被存、被 思召故也

已下刻 御黒書院 出御、兩典厩水戸羽林右順々

御對顔過、松平加賀守 保科筑前守順々

御目見 退出過、御白書院 出御諸大名如例月御礼有之

佐竹修理大夫忌明 御目見 松平越後守国元、

使者片山主水を以箱着、一種献上則主水、御前へ被

召出是、今度押領金被 仰付御礼、此上雅樂頭言上 (日録は此旨)

紀伊巫相、使者石黒藤兵衛 御目見是伺御機嫌也

青蓮院御門跡、使者谷左近御太刀目録香包被差上之

則使者 御目見今度入院被 仰付御礼

御勝手方、御目付能勢惣右衛門病後 御目見

駿河へ御暇 時服五羽織 松平丹後守

仙臺へ御目付御暇金三枚、津田平左衛門 柘植平右衛門

是、今度松平美濃守閉門被 仰付故国元仕置被遣候右過

下段間之襖障子雅樂頭開之御次之間寄合面々一同

御目見 入御 老中退去以後二丸為見分相越但二丸

御殿瓦吹、御普請依有之也

守居者共招之今度雨降洪水、付諸國在之耕作損

毛之地有之旨及 上聞国々酒造之儀累年可為

半分之旨被 仰出此旨以書付被仰渡但書付一通、

相調老人、被 召出被相渡之也

申刻 伊豆守當地、參着

同晦日 曇辰上刻、雨 夜中不止 松平伊豆守大坂へ依帰国登 城於

御座之間 御目見彼地様子可言上猩々、緋十一間

銀馬代を以御礼 御臺様へ羽二重十疋進上

大坂へ帰參付 高木伊勢守 久志本式部 佐野主馬

長谷川左太夫 鈴木修理 右五人登 城謁老中退去

御醫師 銀五十枚、宗悦 同三十枚 玄竹 同 意安

同二十枚 友仙 右今度御不例之處早速御快氣被遊

御機嫌之旨被 仰出白銀被下於 御座之間 御目見

當月伊豆守 禁中參内之時 禁裏へ伊豆守へ

被下候 詠松、有歌声和歌

風吹、穴にはしらぬ白雪の里ちにしらふ日松の声哉

同廿九日晴 於評定所豊後守美濃守出座有之諸大名留

九月朔日 小甲辰曇時々雨 如例月御一門方在江戸諸大名御礼

有之 蛭川喜左衛門駿府為御目付依被 差遣御暇黄金
二枚拾被下 松平伊豆守登 城無之是京都御用数多有之
故也

同二日 乙卯快晴 伊豆守今日登 城無之

同三日晴女院御所へ初菱喰以宿次被遣之

一 本三丸跡 二面 燒金銀被為吹之不残出来付奉行面々今日登
城

一 来月廿日 後光明院就七回御忌於泉涌寺御八構御執行
付 面 八木五百石白銀十貫目進献之旨兩傳奏 申入之

同四日丁巳 今朝御小納戸梶川庄左衛門御番 二 登 城仕節下馬
二 落馬仕付今日當番御醫師長祝泊庵被遣但し
少々内雅楽頭宅へ入養生仕候由 中風

日光御目付代服部久右衛門被遣之

同五日晴 如例月重陽之呉服御連枝方諸大名之使者を差上
但五万石以上之御一門方使者於柳之間豊後守謁御納戸
梶川庄左衛門昨夜死去之由

同六日 晴末上刻之曇申下刻
上り雨夜中時々降 日光御門跡日光山 江 御登山 二 付御醫
師大坂道圓御供可仕候由被 仰渡依之日門 江 為 上使上枚宮内
大輔被遣

同七日 曇時々小雨 已下刻御黒書院 出御參勤御礼

金馬代 松平式部大輔 箱肴 奥平美作守

銀馬代 松平兵部少 金馬代 服部中務少

銀馬代 松平佐渡守 同 黒田市正

同 遠山備前守 同 五嶋民部少

同 松平長門守 銀馬代 土岐山城守

同 岩城伊豫守 同 堀 三左衛門

但小笠原土佐守儀へ大坂之在所へ御暇被下候
(日録は小笠原佐廣守)

土岐左京亮大坂堀 二 付 面 御礼是先日罷帰候付 面 登 城
雖仕其節御不例 二 付御礼無之故今日御礼

紀伊殿使者北條熊四郎 御目見是 ハ 伺御機嫌終 面
御勝手 ハ 銀馬代 本多豊前守 同 中根日向守
甲州御番堀 秋浦市左衛門是 ハ 先日煩故延引 面
大御番組頭御礼終 面 御次間 出御山吹之間大坂堀
大御番一同 二 御目見 非 杉戸 キヲ 病後箱肴牧野因幡守
大坂御目付堀 丹羽平右衛門 土岐左衛門

同所帰 御目見 高木伊勢守 久志本式部 佐野主馬

長谷川左太夫 鈴木修理 右何も一同 二 御目見午刻 入御

一 高田御方御移徒 二 付 面 為御祝儀銀二百枚御小屏風二双
一 荷二種被為 進但御使 二 奥之上藤近江殿被遣

高田御方御内 拾四 長谷川刑部 銀廿枚 上藤御方
同 アサカ 同 アカヲ (日録はアサカ) 同百枚惣女中右為御礼松平下野守
登 城謁老中退去

同八日 曇下刻之雨其後止晴 殿中別條無之

同九日 晴申上刻曇同下刻之雨雷極光風甚西下刻止 御白書院 渡御

水戸殿 尾張殿 宰相殿 中將殿 右兵衛督殿
(日録は松平左兵衛) 松平左兵衛 松平加賀守 保科肥後守 保科筑前守

右順々御礼過 面 御礼 山王 最教院 御祓
右過 面 大廣間 出御 中段 御着所 国持衆在江戸諸
大名御礼右濟 入御

同十日 快晴 巳刻二丸へ被為 成午刻 還御

金三枚時服三 新庄宮内 大井新右衛門 長谷川久三郎
山本六右衛門 花房又七 川口作左衛門 川口源左衛門

領付不出 小堀二郎兵衛 右是 ハ 比度所々御門御普請奉行被
仰付處出来 二 付被下之御目付丹羽平右衛門事病者 二 付湯
治仕度由兼々御訴訟申上候処心次第 二 可仕旨

上意依之老中同役森川小左衛門安藤一郎兵衛 江 申渡

同十一日晴當月 日光山へ御名代吉良若狹守増山弾正少被遣明後
十三日發足

同十二日 曇時々雨申下刻之雨
夜入時々止 酒井雅楽頭於 御前在所并湯治之御
暇 御召小袖二羽織一押領但イカヲエ湯治也

已上刻二丸 江 被為 成未上刻 還御
織田山城守知行高三万弍千石之内三千石弟式部少分申度由兼々
御訴訟申上候處心次第可仕旨 上意依之今日
殿中 江 招之望之通被下候

水戸尾張紀伊殿へ為 上使伊豆守是雅楽頭在所御暇被下候由
被仰遣 阿部豊後守肩 種物出来少痛有之由 ハ 前退出

同十三日 曇時々晴夜中少雨 今度打續洪水 京都迄道破損之
所々見分 并 道橋修復奉行被 仰付

郡奉行 片桐石見守 同勘定衆 諸星傳左衛門
長谷川太郎兵衛 大森六兵衛 安藤伊賀守組 美濃部權之助

戸田淡路守組 山高孫兵衛 松平左近大夫組 長田喜左衛門
加々爪甲斐守組 原田勘右衛門 松平豊前守組 齋藤次郎右衛門

岡部備後守組 大沢次郎左衛門 右招之伊豆守美濃守出座 ハ
被仰渡但片桐石見守儀御見分御用明次 二 在所 江 參
休息可仕旨被 仰渡自然御用有之 ハ 岡田豊前守當地
罷下候間可申越候由是亦被 仰出候

酒井空印為伺御機嫌登 城御目付宮崎助右衛門事日光
掃登 城阿部豊後守種物病之由 二 九時退出

今朝雅楽頭當地發足 豊後守種物出来殊之外痛
候 二 付外科宗庵招之種物其上引込後 二 養生可仕旨

同十四日 北風吹已下刻止時々晴
夜入風止 阿部豊後守為養生登城無之

同十五日 曇已上刻之快晴 已上刻御黒書院 出御如例月御礼次

一束一卷 高野學侶方 弥勒院 同 同所行人方 明聖院
同 正学院 同 西方院 後住御礼一束一卷 小池坊
同 身延 久遠寺 紀伊殿使者 藪半左衛門 御目見是伺御機嫌也

南御縁類 一束一卷 當山二宿 過 面 御白書院 御着座
御勝手 ハ 駿河在番 金五枚時服三羽織 板倉筑後守

銀廿枚 天方主馬 駿河加番御暇 時服四羽織 高木善次郎
蒔田權之助 同三羽織 酒井内記 右過 面 御次之間 出御
駿河在番御書院組中御暇一同 御目見子供初 面

御目見鳥目百疋ツツ 三郎九郎子 小左衛門子 堀右衛門子
神保惣五郎弼五郎子 問宮甚九郎 坪井新之助 中野吉兵衛
馬場三四郎忠左衛門子 天野長三郎 加藤源十郎 堀田市郎兵衛
菅沼傳九郎善兵衛子 佐野吉之助 大久保次郎兵衛
秋浦教馬八郎左衛門子 西郷八十郎 右鳥目前置一同 御目見

入御以後駿河在番罷越分 銀拾枚ツツ 被下候
奥州御馬買被遣御暇金三枚小袖二誼訪部又九郎秋山六郎左衛門
堀三左衛門中野傳右衛門森勘右衛門右三人駿府御城中破損
奉行被 仰付 已下刻二丸被為 成午下刻 還御
今度所々御門御普請被 仰付候御被官大工四人へ銀拾枚ツツ 被下
但出来二付也 豊後守為養生登 城無之
雅楽頭今日国日録は前條元殿橋へ参着之由

同十六日晴 小袖一京都委石山兵床坊使僧 御暇 良賀 同二 山村三左衛門
老中 巳刻退去直二松平龜千代御普請場へ為見分罷越

同十七日曇午上刻々時々雨 辰上刻紅葉山 御宮江 御参詣供奉行
列 御先美濃守 御供伊豆守 御太刀 松平因幡守
御沓 大久保出羽守 還御已後為伺御機嫌御三人方使者
被献之水戸尾張紀伊殿御先へ参詣兩典殿還御以後参詣

同十八日曇時々小雨止申上刻々雨夜中時々止 於評定所式日伊豆守出座是
四日十二日寄合延引二付也 豊後守登 城無之

同十九日曇時々降西上刻々雨夜中不止 禁中江霧一羽以次飛脚被遣之
新御右筆衆今日御四季施可被下旨被 仰渡 豊後守登 城無之

同廿日巳上刻々甚雨風未上刻々雨止 大嵐同下刻々引西上刻風雨止 今日紅葉山 御佛殿 御参詣
雨天并少々 御不例二付御延引被遊候依為 御名代伊豆守参詣
為伺御機嫌御三人方使者被献西刻老中伺御機嫌登 城

同廿一日快晴 御不例二付為伺御機嫌 御兩典 御三人方家老被差上
之 保科肥後守 酒井空印登 城

同廿二日快晴 為伺御機嫌兩典殿御三人方諸大名使者被献仙

洞御所新院御所へ初霧一 以宿次被差上之 保科肥後守登
城伊豆守退出已後上野御普請場へ相越之

同廿三日青 為伺御機嫌兩典殿 御三人方使者被献之
阿部豊後守へ 上使大久保豊前守種物未能無之様躰尋
れ為 聞召之旨也為御礼播磨守登 城

同廿四日青 増上寺 御名代 美濃守参詣 為伺御機嫌
御兩典 御三人方使者被献之
御暇 小袖四高野山字學方 弥勒院 同二 行人方 正学院 同 明星院
銀三拾枚 小袖二和州長谷 小池坊 小袖二 當山二宿

同廿五日 午刻甚雨雨風夜入止 為伺御機嫌御三人方御兩典使者上
同廿六日 午刻雨天未后刻止 為伺御機嫌御三人方使者被献之
女院御所へ以宿継初霧 被献之 新御番頭被為 召御用
被 仰付

同廿七日辰刻々雨降 日光御門跡 御當着二付 上使以吉良
御菓子一種被遣 為伺御機嫌御連枝方使者被献之
吉良若狭守 増山彈正少弼 日光掃登 城

同廿八日時々曇 如例月御連枝方在江戸之諸大名出仕
御不例御禮無之謁老中退去 老中西刻登 城伺御
機嫌也

同廿九日曇 為伺御機嫌御一門方使者被献之
保科肥後守 酒井空印登 城阿部豊後守種物未能雖
無之 御不例 付為伺御機嫌登 城於 御座之間
御目見 為伺御機嫌西刻老中登 城

十月朔日曇 如例月御家門并在江戸之諸大名出仕為 御養生
之御礼無之日光御目付代丹羽平右衛門被遣之候

同二日青 為伺御機嫌御家門方使者被献諸大名使者差上
御不例 御快然被遊候間一兩日間置使者可差上候旨御目
付被申渡候 保科肥後守 酒井空印登 城也

同三日青 道中為見分被遣仍御暇被下 銀百枚小袖六羽織
片桐石見守 金五枚小袖二天龍川 大沢次郎左衛門大井川 美濃部權之助
長田喜左衛門富土川 山高孫兵衛 原勘右衛門 齋藤次郎右衛門
金三枚小袖二御勘定組頭 諸星清左衛門 長谷川太郎兵衛
同二枚小袖二 芝六兵衛

為伺御機嫌御連枝方諸大名使者被献之保科肥後守酒井空印
阿部豊後守登 城之佐田玉川と申町針立可被 召出之由也
金式枚小袖二伊奈半左衛門 手代永田九郎兵衛 富田助左衛門者
上方筋道中堤奉行被 仰付二付被遣但案内人二被遣候

同四日 北風甚夜止 為伺御機嫌御家門方諸大名使者献上
御譜代大名登 城保科肥後守酒井空印阿部豊後守登
城玉川被 召出御針被 仰付

同五日青 為伺御機嫌御家門方諸大名登 城保科肥後守酒井空印
登 城今朝伊豆守美濃守松平龜千代普請場へ相越候

同六日 未刻雨降 為伺御機嫌御譜代衆登 城御連枝方使者
被上 本多豊前守 中根日向守 兩組大坂在番中御改有之
松前志摩守在所へ御暇被下 上意之趣老中傳但在所患曾鳴
保科肥後守 酒井空印登 城

同七日 未刻雨夜中不止 為伺御機嫌御連枝方并諸大名使者被献
肥後守空印登 城

同八日 小雨西刻青 為伺御機嫌御譜代大名寄合面々登 城
城御連枝方諸大名使者被献之肥後守空印登 城

同九日青 為伺御機嫌御家門諸大名之使者被献之

肥後守空印登 城酒井雅楽頭在所帰於 御座間

御目見 榛一箱献上 御臺様へ雉子一白上ル

稻葉美濃守午刻退去是堀田上野介昨八日之昼東叡山

參詣仕直ニ御暇も不申上在所佐倉へ引籠

上様江訴狀一通箱入保科肥後守阿部豊後守兩人之宛所

ニ差置仍美濃守退出勿論上野介兄弟共不及登

城佐倉堀田上野介へ為 上使牧野織部正安藤一郎兵衛被為江召

被遣候

同十日 夜中ノ雨 為伺御機嫌諸大名御連枝方使者被献之

保科肥後守登 城也堀田上野介御暇も不申上居城佐倉江

引籠ニ付彼道中関所被 仰付之 松戸御狀題頭 岡野権左衛門

金井御持高頭 安藤彦四郎 市川御狀題頭 坪内又左衛門 金井海手

小笠原安藝守土屋忠兵衛 右之通被 仰付然トも先延引可仕候由也

同十一日 西刻ノ甚北風吹 為伺御機嫌御連枝方諸大名之使者被献之

牧野織部正 安藤一郎兵衛佐倉ノ帰參登 城美濃守四時退出

酒井空印へ相越也 保科肥後守 松平伊豆守 阿部豊後守

酒井雅楽頭宅へ寄合也

同十二日 甚風 為伺御機嫌御譜代大名登 城也 御不例御快然被遊

候間来十五日まで登 城仕義可為無用由被仰傳 肥後守

登 城

二丸火消堀田上野介 阿部伊与守 紅葉山火消 朽木民部少

右民部少病氣ニ付伊与守可被召出之由也

今朝浅草想木火事半町計焼失

同十三日 晴 為伺御機嫌御連枝方諸大名之使者被献之

肥後守空印登 城

同十四日 青 為伺御機嫌御家門方諸大名より使者被献之

大坂御目付代土岐縫殿助寛新兵衛可被遣候由也

同十五日 青 如例月御連枝方諸大名出仕御礼無之右ノ文違フ

御勘定方石津九兵衛事御切手形書替之役由比半兵衛跡役

同十六日 青 為伺御機嫌御家門方并諸大名之使者被献之

保科肥後守登 城也 紀伊重相ノ拜領之鷹捉之露以

使者被献之於 御前天野五郎大夫鯉包丁被仰付小袖二被下之

同十七日 青 紅葉山為 御名代美濃守參詣也

為伺御機嫌御連枝方諸大名使者被献之寄合面々登 城

伊豆守退出已後東叡山御普請場へ相越

同十八日 今朝ノ打續霜降 為伺御機嫌御譜代大名寄合之面々登

城御快然被遊候間重登 城仕間敷由也 御連枝方

(日録は也) 成 雅楽頭 豊後守 美濃守 保科肥後守宅へ相越

同十六日 青 為伺御機嫌御家門方并諸大名之使者被献之

保科肥後守登 城也 紀伊重相ノ拜領之鷹捉之露以

使者被献之於 御前天野五郎大夫鯉包丁被仰付小袖二被下之

同十七日 青 紅葉山為 御名代美濃守參詣也

為伺御機嫌御連枝方諸大名使者被献之寄合面々登 城

伊豆守退出已後東叡山御普請場へ相越

同十八日 今朝ノ打續霜降 為伺御機嫌御譜代大名寄合之面々登

城御快然被遊候間重登 城仕間敷由也 御連枝方

諸大名より使者被献之 保科肥後守登 城

駿河大納言殿御家来山名兵庫死去是内藤帶刀御預之者

土岐縫殿助從弟也

同十九日 青 為伺御機嫌 御尚典ノ使者被献之重ニ御延引

被成由緒大名使者献上重ニ可為無用之由也

同廿日 青 上野 御名代美濃守參詣

同廿一日 青 殿中別条無之

同廿二日 青 公方様 御不例 御快然 午刻 御表 出御

伺公之面々 御目見 紀伊大納言殿昨日御當地御參着ニ付

為上使伊豆守被遣之 保科肥後守登 城

同廿三日 西刻ノ雨降 御不例 御快然昨日御表 出御被遊珍重旨御譜代大名

寄合登 城諸大名之使者献上之酒井空印登 城

當暮之御切米張紙出百俵(日録は五十兩) 付金五十三兩直段可被下由也

同廿四日 青 増上寺為 御名代美濃守參詣也

保科肥後守登 城

同廿五日 青 酒井空印登 城

同廿六日 青 當中別条無之

同廿七日 申刻ノ甚風吹 殿中別条無之

同廿八日 早且ノ西風吹 於 御座之間 紀伊大納言殿參勤之御礼

小袖十金馬代被献之 水戸黃門 尾張黃門 紀伊相公

松平左京大夫 御目見 銀馬代大納言殿家来 渡辺若狭守

同久能三郎右衛門 藤合宇右衛門 小笠原長右衛門 同与左衛門

原市十郎 長谷川勘八 今日紀伊殿御礼付諸大名出

仕無之 御臺様江 紀伊殿ノ綿二百把二種一荷被献之

保科肥後守登 城

同廿九日 青 今夜 亥猪之御祝儀有之伺公之面々熨斗目長袴

着之 酉上刻 白書院 出御 御長袴

御長髮 上段 着御 御禪 御座疊御刀掛有之

御量縁敷居際 立御大廊下タマリ御譜代衆

白書院 御次之間ニ諸番頭物頭役人等御番衆並居

一同ニ御目見終ニ御上段 着御此時御祝之餅大三

方載 大久保出羽守持出次 御臺牧野長門守松平因幡守

持出 上段備之刻 御手被為附 入御終右頂戴退散

酉後刻終

同晦日 青(日録は日光御懸) 日光山御藏へ盗人入小判千四百両黄金百廿枚盜之

由注進之(日録は黄金廿枚)

十一月朔日 如例月御連枝方諸大名出仕為御養生御礼御延引也

日光御金藏盜人付御金紛失^二付て彼地御目付稲垣

清右衛門昨日注進之依之為御穿鑿新御番頭渡邊

平右衛門被 仰付之處御差合^二付駒井右京へ被 仰付即御扶持

方人馬 御朱印被下候但訴人在候其為御褒美黃金

五拾枚被下候由被 仰渡右京亮彼持參日光^二捕可申旨

是又被仰含之

同二日青 今度秋田阿波守はね橋向地割引ならし可申旨

被 仰付出来付家来被下者

銀三拾枚小袖三羽織 阿波守家来 神田貞右衛門 同 大高十太夫

銀廿枚小袖三ツツ 神尾太郎右衛門 松平庄兵衛 八木市右衛門

秋田權右衛門 紀伊殿へ上使伊豆守 水戸殿^江 上使豊後守

尾張殿^江 上使美濃守

同三日青 於芙蓉之間老中出座詰衆^年緒番頭諸物頭招之

堀田上野介正信今度御暇も不申上居城佐倉へ引込殊^二

時分可有之候処 御不例節訴差上たる由也御取上可被成義無

之重^二不届被 思召之間急度雖可被 仰付加賀守正利

依為伴御定免弟脇坂中務少へ御預^レ是又上野介

伴帶刀事加賀守孫之儀為御扶持方老万俵被下置居

城佐倉城^レ被差上之右之段今朝酒并雅樂頭宅へ老

中出座彼一家脇坂中務少招之 上意之趣傳之佐倉

城請取朽木民部少御目付安藤一郎兵衛猪飼半左衛門可被遣

候由同所在番安藤對馬守新庄越前守被 仰付 肥後守登

城於 御座之間 御目見 妙法院御門跡^レ以小河

金右衛門 薰物被献之是山王為御祝儀銀子被遣御礼

今夜八時日本橋大工町^レ出火半町計焼失

同四日青 松平右衛門佐參勤付 上使阿部豊後守被遣之

堀田上野介上屋敷番田付四郎兵衛被 仰付彼屋敷受取可申

候佐倉御代官 設案源右衛門細田小兵衛八木治郎右衛門

深谷喜右衛門 同御勘定 井出十右衛門守屋五兵衛可被遣候由也

同五日 早雨降西朝止 酒井空印登 城掃^而 上使松平備中守

御鷹之轟御札於 御座之間 御目見 小堀甚兵衛

金三枚小袖三被下之神田橋御門御普請奉行出来付^而也

同六日 未刻^レ雨降申刻止虹二筋引 評定所式日 伊豆守出座

朽木民部少 安藤對馬守 安藤^一郎兵衛 猪飼半左衛門被為

召御用有之

同七日 早且^レ風吹 御針立佐田玉川三百俵被下但當暮皆被下旨

同八日青 佐倉城本丸 安藤對馬守 二丸 新庄越前守右之通

可請取之旨雅樂頭傳之

一 酒井飛騨守今朝病死

同九日 青成刻^レ雨降 已刻黒書院 出御 參勤御礼

小袖十金馬代 松平右衛門佐 金馬代 松平日向守

銀馬代 松平備後守 松平日向守 松平美作守 鍋嶋和泉守

新庄越前守 小出伊勢守 植村右衛門佐 岡部内膳正 加藤織部

松平伊賀守 大坂掃 金馬代 内藤帶刀 駿州加番掃

御腰物掛一銀馬代 小堀大膳 永井右衛門 駿州在番掃

青山丹後守 同中根平十郎 同組中 佐渡掃 箱肴

御手洗四郎兵衛 加州御目付掃 邊渡筑後守 能勢次左衛門

川中嶋御目付掃 西尾藤兵衛 荒尾平八郎 佐倉^江御暇

小袖五羽織 新庄越前守 但民部少事伴伊与守召連參度

之由兼々訴訟心次第可召連之旨城受取次第在所^江

罷掃休息可仕旨 上意佐倉御目付金二枚小袖二

猪飼半左衛門 安藤一郎兵衛 奈良御暇小袖二羽織中坊美作守

国々高札立替付^而 被遣御暇銀拾枚ツツ 落合三郎右衛門

下枝忠兵衛 金春太夫 銀三拾枚小袖二 金剛太夫

銀廿枚小袖二其外役者共へ被下物御暇被下之

同十日 時々小雨申刻北風吹 殿中別條無之

同十一日青 土屋民部少 西郷孫六 水野備後守在所御暇被下物無之

佐倉^江御暇 御代官 設案源右衛門 細田小兵衛 八木次郎右衛門

深谷喜右衛門 同銀三拾枚 御勘定 井出十左衛門 同拾枚守屋五兵衛

同十二日 未刻^レ雨降西朝止 今度 公方様御不例御快然被遊付

御不例中相詰候面々被下物

金 一枚小袖三 御守衆 大久保豊前守 同五枚小袖三ツツ 松平備中守

安藤對馬守 大森信濃守 金五枚小袖二 御小姓 松平紀伊守

牧野長門守 松平因幡守 石川能登守 齋藤美作守

岡部志摩守 松平内記 阿部伊勢守 大久保大学

金五拾兩ツツ 宮崎七郎右衛門 成瀬惣右衛門 鶴殿十郎左衛門

日録は青山半左衛門 遠山半右衛門 揖斐五左衛門 小菅内蔵介 大久保三十郎

廣戸半兵衛 万年佐左衛門 間宮長兵衛 本多金右衛門

金拾枚小袖二 御小姓衆 大久保出羽守 同 大久保兵部

金百兩 御小納戸 松平次郎兵衛 大久保甚四郎 山岡十兵衛

右五人昼夜相詰付^而 別被下 小袖三 御小姓 永井甲斐守

牧野大七郎 金五枚 宗悦 玄竹 意安

金三拾兩 珍阿弥 同廿枚 才阿弥 同三兩ツツ 奥坊主三拾三人

金三枚 御膳奉行六人 同貳枚 御頭頭貳人

銀三拾枚 御臺所頭三人 同一枚 鈴木八郎兵衛

銀拾枚ツツ 御膳所御臺所頭 黒川猪左衛門 鈴木喜兵衛 堀屋半左衛門

吉村七郎右衛門 同五枚ツツ 表御臺所頭 神尾七之助 福田五左衛門

原弥兵衛 北村猪兵衛 金五兩 御膳御臺所衆 拾六人

銀三枚ツツ 御膳所頭 銀五枚ツツ 小間道頭 犬塚九右衛門 浅井

彦兵衛 同十二枚ツツ 御酒奉行 六人 香奉行 六人 御善屋奉行 六人

同八枚 味噌奉行 四人 同十二枚 同上奉行 六人 金貳拾七兩貳分

銀拾枚 御臺樣^江 金五枚小袖三 アヤチ ヲムメ 近見

同三枚小袖二 星野 屋嶋 川崎 同拾枚 ユリコチチホ コラ

御次間七人 銀五枚ツツ 女中三人 同三枚ツツ 御上臈二人 同九枚

御右筆 三人同廿一枚 御三之間 七人 呉服間頭 老人 同廿三枚 呉服間 十一人

同九枚 御広敷 三人 同四枚 ヒツニ 式人 同廿四人 火之番 十二人

同四枚 御半人 二人 同三枚 御なかい 三人 一步四十四つふ 御半下 式十二人

銀三拾枚 祖心 同廿枚 貞心 春清 此外 御臺樣衆へ

被下物有之

一 東海道筋五十三ヶ所馬次裏微付御金被為借旨老中出座

所々大名家来招之傳 町方へ三百兩 城下へ 五百兩

都合金二万五百兩右道中城持寛

相州小田原 稻葉美濃守 駿州田中 西尾右京
遠州掛川 井伊兵部少 同所濱松 太田備中守
三州吉田 小笠原老岐守 同所岡崎 水野監物
同所荻谷 稻垣信濃守 勢州桑名 松平越中守
同所龜山 石川主殿頭 江州膳所 本多下総守
城州淀 永井右近大夫 尾州宮 尾張殿
一 上野 御堂 御修造出来付^二而為 御名代雅樂頭參詣
伊豆守彼地相詰候 堀田上野介當年知行物成之儀當
月十五日迄伴帶刀へ被下候家中之者、帶刀心次第之由朽木
民部少 安藤市郎兵衛 猪飼半左衛門被 仰渡之

同十三日 青申刻^ノ其北風吹 午刻御黒書院 出御御暇被下候
小袖二十 松平中務大輔 同十 松平主殿頭
同五羽織 秋田阿波守 同 土岐山城守
同十同 岩城伊豫守 同 丹羽若狭守
同六同 榊原刑部大輔 同 小笠原上野介
同五同 水野監物 同三羽織 土岐兵部
同 内藤飛騨守 被下物無之 奥平美作守

參勤御礼 銀馬代 九鬼式部少 知行分被下御礼銀馬代織田式部少
夜^ニ入於 御座之間舞被 仰付 伏見常盤
幸若弥次郎 同次郎右衛門

同十四日青 幸若弥次郎 小袖三 同次郎右衛門是 夜前舞之被
仰付依て被下候

同十五日青 如例月御禮有之 伏見殿々使者以三木刑部
縮緬廿卷一荷一種被献之是今度家督相統其上

親王宣下 使者 御目見 一束一卷^{先達} 大学院
一束一本 若王寺 勝仙院使僧一束一卷^{高野 常住光寺}
一束一本 最勝院 同 周内玄勝大緒二筋^{基打 鹿隠}
長右衛門 大坂御目付代御暇 金五枚ツツ 土岐縫殿助
算新兵衛 参府 棗十 上林竹庵 縮緬三卷 同三卜
一 松平淡路守御暇之儀願之通四月替被 仰付候
一^(この節分日) 久太夫去頃御幕被 仰付之出来付^而 小袖三被下之
今度 大猷院殿 御堂御修造畢^而 就 御入佛

上使以伊豆守 僧中遺物 銀二百枚 日光御門跡
同百枚 毘沙門堂 銀三十拾枚 凌雲院 寒松院 真光院
銀廿枚 覺樹院 最教院 実成隠 学光院 常照院
同式百枚 僧中 青銅百貫 宮堂 御掃除者
同十六日^{戊辰} 御臺所頭 天野五郎大夫 鈴木喜左衛門兩人被 召出
於 御前 五郎大夫 鯛包丁 喜左衛門 鷹包丁被 仰付
上覽已後喜左衛門小袖二被下之本多土佐守^三金五枚時服三被下
是^ハ去十二日拜領物可仕候處^二煩^レ付今日被下之
夜入於 御座之間岩船檢校被為 召之平家土佐坊
被 仰付語終^而御召之小袖二被下之 今朝雅樂頭宅へ
御老中寄合有之是、田村右京御訴訟之儀有之付^{江も}
也御訴訟申上候^者陸奥守跡式被 仰付其上自分^{江も}
三万石被下置難有奉存候併今一度陸奥守被
召出候^者弥以難有可奉存候由御訴訟也
一 佐倉城昨十五日五^ツ前^二請取之由今朝朽木民部少々注進

同十七日 己巳早且警已下刻^ノ晴夜^{上刻^ノ其北風夜中不止} 紅葉山^江為御名代豊後守參詣
銀拾枚 増田清右衛門是、駿州 御城中御普請有之
依て被遣^二付^一被下之

同十八日^{庚午} 堀田上野介上屋敷阿部伊豫守被下伊与守屋敷^ツ久
世大和守^二被下 御座之間 上意 酒井長門守坂部三十郎
両屋敷山口半左衛門^二被下之定火消番被 仰付久世大和守
代官町屋敷内藤弥三郎^二被下定火消番被 仰付何れも
与力六騎同心三拾人御預り也
尾張殿へ為上使豊後守を以御暇被為進之
東叡山真光院破損^二付為修復料金三百兩被下旨
伊豆守傳之 醫師衆へ如例年菓種被下之
酒井空印為伺御機嫌登 城

同十九日 辛未時々降子后刻地震 於 御座之間 尾張殿^江御暇
被下之旨 上意御引渡出^終而御馬二疋御鷹三居
鶴捉鷹捉鴨捉被進之旨被 仰出過^而午上刻
御黒書院 出御 家來衆御暇 銀百枚小袖十

御馬一疋 成瀬信濃守 小袖六羽織 清水甲斐守
小袖四羽織 荒川次郎九郎 同三同 山澄将監
同三同 下条庄右衛門 同三同 成瀬大膳
同三 生駒因幡 同 沢井三左衛門
右過^而 入御 御三人方へ如例年御菓種一箱被為進之
松平越後守於国元齋拜領仕候^二付為御礼使者以御肴
一種被献之豊後守謁退去

同廿日 壬申晴 上野 御堂^江為 御名代美濃守參詣
小袖五羽織 松平甲斐守是、上野御普請手傳被 仰付
出来^二付被下候 金五枚時服三羽織 小出越中守
同 神尾若狭守兩人御同所御破損奉行被 仰付出来^二付被下

同廿一日 癸酉早且^ノ北風夜^ハ 今度上野 御堂御普請中相詰
奉行^并御被官大工等へ金銀小袖被下候
銀三十拾枚小袖三羽織^{松平伊豆守家來} 深津藤右衛門 中村源左衛門
同廿枚 同断 同 尼子八郎兵衛
同拾枚 同 朝比奈三左衛門 同三拾枚^{御大工頭} 鈴木修理
同廿枚 同 木原内匠 同拾枚 鈴木与次郎
同 同三郎左衛門 同 七十郎^(日録にはなし)
但七十郎^ハ秋田阿波守御普請場へ相詰付^而被下候
一 午后刻老中退去 徳川右兵衛殿へ御振廻^二御越

同廿二日 甲戌晴 於 御座之間 板倉内膳正 石川播磨守
老万石ツツ御加増^二而 大坂御城番被 仰付旨
上意之旨与力同心如先規被下之但安倍丹波守保科
彈正忠両人^ハ御役御免是病者^并老躰^二付^而也
老中^ノ御奉書^ヲ以被 仰遣候
御小姓組番頭 小出越中守 御前へ被 召出千四百石之御加増
都合五千石^二被成上方御用伏見城代水野石見守同前^ニ
可承旨 上意則与力同心備前守組付御預^レ右三人
来三月^ニ登り可申旨被 仰出

同廿三日 乙亥晴 殿中別條無之 酒井空印登 城
御目付久留七郎左衛門今朝病死

同廿四日 丙子早且暴雨夜入止餘 増上寺為 御名代豊後守參詣

一今度上野本地^并品川東海寺兩所依為破損修復為奉行

上野 御小姓組本多土佐守組 三枝備前守 御書院番

米津出羽守組 稻葉清左衛門 品川 御書院 酒井飛騨守組 戸川

半左衛門 御小姓組 三枝撰津守組 久留島半八 右兩人^{ツツ}被 仰付之

上方へ御暇 銀三十拾枚小袖三 岡本玄琳是、上方^ニ知行所

有之

同廿五日 丁丑快晴巴下刻々北風^{未上刻止} 御小姓組番頭 三枝撰津守

御前へ被 召出之御書院番頭酒井飛騨守跡役被 仰付旨

上意 御膳番御小姓伊豆守三男松平因幡守被 召出

千俵御加増都合二千俵^ニ 御小姓組番頭小出越中守跡役

被 仰付是今迄の様^ニ 御前^ニ相詰可申之旨 上意

大久保右京亮弟大久保出羽守被 召出千俵之御加増都合貳

千俵^ニ 三枝撰津守跡役被 仰付之是、今まで様^ニ相詰

可申旨 上意終^ニ退去

伊豆守 美濃守 午下刻退去大奥へ被相越夫^ノ御三人方へ

上使 紀伊殿へ伊豆守 水戸殿^江美濃守右被遣御用之儀

不知 加々爪甲斐守惣領信濃守久々煩^ニ付 今日病死

同廿六日 戊寅 於 白書院老中出座 三枝撰津守 松平因幡守

大久保出羽守組中引渡有之

同廿七日 己卯晴 紀伊宰相殿へ為 上使阿部豊後守被遣是、明日

依為進就夫諸大名出仕無之

同廿八日 庚辰晴 於 御座之間 紀伊參儀御暇被進之旨

上意 御熨斗出^ル已後御鷹二居御馬一疋被下之由被

仰出 紀伊殿 左京大夫殿 御目見是、相公御暇忝之由

午上刻 御黒書院 出御 參勤御札

金馬代 大久保加賀守 同 石川主殿頭

同 本多中務大輔 銀馬代 水野右衛門大夫

箱肴 榊原越中守 佐倉掃御札 朽木伊豫守

御暇 小袖四羽織 松平肥前守 同 本多監物

同三同 織田式部

銀百枚時服十御馬一疋^{宰相殿家來} 御暇安藤帶刀 小袖四羽織

伊達源左衛門 同 伊丹三郎右衛門 同三羽織 志賀弥三右衛門

同 津田次郎兵衛 右過^ニ入御

一 松平信濃守被為 召知行 出雲大社及大破^ニ付御造營被

仰付之旨 定火消 黄金拾枚時服三 近藤彦九郎 秋山十右衛門

一 佐藤甚之丞 水野半左衛門 永井十郎左衛門是、火事事之節

度々情出し消申候付^ニ也弥情出し可申旨老中列座傳之

老中退去以後 宰相殿 御越

同廿九日 辛巳晴 御暇 小袖三 菓師竹庵 金式枚 三卜

金一枚 繪物屋吉兵衛 惣四郎 弥五郎

十二月朔日 壬午晴 如例月御札有之御黒書院御鷹場へ御暇

御鷹二居 紀伊重相 水戸黃門

御白書院廊下^ニ在所掃り 大緒二拾筋 柳生飛騨守

高野山獨札 一束一卷 雲當院僧正 同^{兵衛} 大音寺

箱肴 御代官 參府 御納戸構後 渡辺因獄佐

御次之間 參府 鳥庫一帖 幸若八郎 扇子一箱 同久八郎

右終 入御 御加増被下候面々

七百石^{ツツ}御加増都合二千石被成^{御守衆} 松平備中守 安藤備後守

五百石^{ツツ}御加増都合千俵被成 大久保兵部少^{御小姓} 松平内記

都合九百俵被成 大久保大学 本知三百石三百俵御加増^{御小納戸} 山岡十兵衛

本知五百石三百俵御加増 成瀬惣右衛門 同 同 大久保甚四郎

貳百俵^{ツツ}御加増^{本知五百石} 宮崎七郎右衛門 同 揖斐五左衛門

同 万年佐左衛門^{本知四百石} 鶴殿十郎左衛門^{本知五百石} 本多金右衛門[△]

同 松平次郎兵衛 同 廣戸半兵衛 同 大久保三十郎

右於 御前被下候

同二日 癸未辰下刻々北風曇り下同刻止 宝樹院殿^江為 御名代美濃守參詣

阿部伊勢守五百俵御加増都合千俵被成 奥之坊主衆三拾三人

金拾兩^{ツツ}可被下旨老中福阿弥へ被 仰渡是、骨折申候付^ニ也

来五日御慰之御能可被 仰付旨被 召出

同三日 甲申后刻々曇晴 老中出座有^ニ縁辺被 仰付候面々

松平安藝守娘 戸沢能登守へ^{飛騨守子} 上杵播磨守姉 松平大藏介

戸田采女正娘^{阿波守子} 板倉隱岐守 奥平美作守娘 五嶋主税

松平丹波守娘 安藤對馬守 太田備中守娘 永井伊賀守

松平市正姉 織田式部少^{近藤傳右衛門弟} 金森長門守妹 山田金兵衛

榊原越中守娘^{三宅内藏介} 中坊美作守娘^{丹下} 本多孫十郎

堀田権右衛門娘 大久保弥五郎

酒井空印登 城於 御座之間御屏風一雙被下之

一 去月十六日丑之下刻長崎町本奥町より火事出来本奥谷

町之内拾九軒豊後町之内拾八軒新町内拾七軒引地町之内

拾六軒堺町之内二軒以上七拾貳軒焼失仕候右之趣十一月十五日之

日付^ニ 今日黒川与兵衛妻木彦右衛門^ノ注進然^ニ風甚敷

御座之間大焼可仕処存之外早速焼止り申候

同日 夜に八不^ニ 於評定所式日美濃守出座

屋敷替被下候面々 六郷伊賀守淺草下屋敷舞明院在之添被下
是^ハ兼々御訴訟^ニ付^テ也 真田伊賀守元屋敷岡田豊前守へ被下

代官町中条左京屋敷内藤弥三郎^ニ被下候火消番屋敷入
久世大和守向也 石河吉之助屋敷中条左京 被下石河吉之助^ニ
(日録に前下からの石河吉之助(中条左京屋敷被下)までの記事無し)
中条左京屋敷被下石河吉之助^ニ父土佐守抱^ラク 屋敷被下

山口半左衛門^ニ御醫師了意屋敷添被下火消番屋敷入
坂部三十郎上り屋敷向也良意^ニ枕原帯刀上り屋敷内^ニ似
合屋敷被下候

御暇銀拾枚 門入 同拾枚時服二 算哲 同拾枚 本因坊
小袖二 宗閑 同 三智 同 宗吟 同 知哲

同日 丙夜^ニ且^テ西風吹午刻^ニ 辰下刻大廣間へ 出御下段^ニ
御座置 御褥 御刀掛有之 御着座御能初 御両典
諸番頭諸物頭諸役人等則 御目見有之
御能組 老松親世大夫 八嶋十太夫 芭蕉親世大夫
羅生門十太夫 祝言十郎兵衛 狂言スエヒロカリ 仁右衛門
イク井傳右衛門 アク坊仁右衛門 右三番過^ニ御中入在之申上刻過^ル
内カシ智楽院上ヶ屋敷之内半分玉川 被下之

同日 丁亥夜中^ニ北風申上刻止 堀田備中守 同對馬守向後出仕可仕旨^ニ
今日も登 城是兄上野介義付出仕遠慮也
一 老中不殘午上刻退去 左馬頭殿^江御振廻^ニ被相越
一夜入於 御座之間岩船檢校被為 召平家横笛被 仰付候

同日 戊子申后刻^ニ小雨夜入止 駒井右京亮 日光^ノ帰參^ニ 登
城是^ハ盗人訴人在之^ニ付^テ也
寒々入^ニ付^テ為^レ何御機嫌 御三人方^ノ使者上^ル謁老中
紀伊殿 水戸殿 鷹一羽^{ツツ} 鴨一羽^{ツツ} 被差上之是^ハ鷹場^ノ被
献之

同日 長崎 大音寺 御暇 小袖二被下之
一 老中不殘午下刻退去 右馬頭殿へ御振舞 被相越
一夜^ニ入於 御座間舞之被 仰付 兵庫筑嶋
シテ 幸若弥次郎 勸進帳 ワキ 次郎右衛門

同日 時々雨午刻^ノ 大坂御目付代算新兵衛土岐縫殿介今朝
百人組番所^ニ 老中列座^ニ 大坂へ御用之儀被 仰遣
是^ハ新兵衛儀少指合在之登 城可仕候^ニ付被召寄被
仰付 松平助之丞 横田甚五郎代也

中条左京了意兩人被為 召去頃屋敷替被 仰付為引料
金二百兩^{ツツ}被下老中出座 御暇銀三十枚小袖三 幸若弥次郎
同廿枚同二 幸若次郎右衛門 同 同伊佐衛門 小袖二 同次郎助

同日 青 大久保權右衛門 市岡左太夫兩人病者^并依為老躰
御役御免被成之旨老中傳之右^ハ兼々御訴訟^ニ付^テ也
御近習番御小納戸渡邊半右衛門跡松平市之丞被 仰付
片山文庵 御前御醫師被 仰付
御座之間^ニ 御囃子被 仰付次第

源太夫^{十太夫} 松風^{親世} 紅葉狩^{平右衛門} 安宅^{十太夫} 高砂^{親世}
せん物^{仁右衛門} 宗論^{傳右衛門} ハンセン^{仁右衛門} 縄なひ^{六郎兵衛}
あわた口^{仁右衛門} 右近左近^{仁右衛門} 楽阿弥^{權之丞} なき阿弥^{仁右衛門}
御はやし^{一番}ニ番^{ツツ}也

一 紀伊殿へ 上使青山丹後守枝柿一箱 水戸殿へ上使大原主膳正
蜜柑一箱 右鷹場へ被遣 三嶋曆師御暇小袖一 河合圓雷
是^ハ曆相卜差上之

同日 壬辰 晴夜中^ニ北風夜入止 水戸中将殿登 城是^ハ昨日 水戸殿
鷹場へ 上使^ヲ以 御菓子被遣御札謁老中退去
初鹿野傳右衛門事去年極月三日^ニ閉門被 仰付処京御免之由
同役面々老中傳之傳右衛門登 城 青山丹後守 大草主膳正
上使帰登 城 松平新太郎老母へ如何年御合力米千俵被下之

同日 晴 於評定所式日豊後守出座
朽木民部少在所^ノ氣色以外^ノ外処昨夜^ニ帰京^ニ付今朝意安被遣之
一 松平左京大夫登 城是^ハ昨日新太郎老母御合力米被遣御札
謁老中 立花飛驒守登 城是^ハ昨日以上使弓氣多源七
御鷹之鷹^ノ御札飛驒守當四月雖御暇被下陸奥守故
當地^ニ罷在候^ニ當冬此地^ニ可罷在之由來四月御暇被下之旨
老中列座雅楽頭傳之

一 紀伊殿鷹場^ノ以久野三郎左衛門 水戸殿同使者中山備前守^ヲ以

一 昨日上使之御札^并御菓子御札也 御加増被下候面々
八百石御加増都合式千石 大森信濃守 五百俵御加増都合千九百石
牧野長門守 本知五百石之上式百俵御加増 遠山半左衛門
銀廿枚時服二 狩野采女是^ハ上野 御佛屋御陰書申候^ニ付被下也

同日 如例年 御すす拂有之候^ニ付
公方様 大奥^江被為入 朽木民部少今朝死去之由

同日 晴 金五枚時服三羽織 兼松又四郎 近藤勘右衛門
榊原左衛門是^ハ御金須奉行 金三枚小袖^{ツツ} 御金奉行
筒井七郎右衛門 梶川七之丞 淺井治右衛門 須田傳左衛門
加々美金右衛門 疋田喜左衛門 金三枚時服二 佐野主馬
雨宮次郎右衛門 金式枚時服^ニ 小泉茂右衛門 高室勘左衛門
小草半兵衛 銀拾枚時服二羽織 後藤庄三郎 後藤四郎兵衛
大黒屋長左衛門 平野屋平右衛門 糸屋与四郎 銀拾枚 平野屋助右衛門
以前西年大火事^ニ焼申候金銀黄金吹分申候付被下之

同日 巳下刻 御黒書院 出御 如例月御札有之
御白書院 鷹場帰 紀伊殿 水戸殿 御對顔
鷹二羽宛被献之 御臺様へ鷹一羽被差上之 尾張殿
国元へ参着^ニ付^テ竹腰山城守を以二荷二種被献之 山城守
御目見 一束一卷 松平加賀守家来 松坂檢校是^ハ惣檢校被
仰付御札 小刀一本 二諦坊 右畢^ニ下段合襖障子開之
御次之間寄合面々並居一同 御目見南御縁類轡上
市口主計 扇子 檜垣屋久右衛門 大緒五筋 坂本屋弥右捧進
物一同 御目見終^ニ 入御之刻 御黒書院 着御
在所帰 箱肴上 松平出雲守 水野備後守 筑州久留米
御目付帰 江原与右衛門 藤室主馬右 御目見 入御
御鉄炮頭 大久保權右衛門跡 米津出羽守組 久永源六
同 市岡左太夫跡 加々爪甲斐守組 夏目左衛門
御船手 溝口半左衛門跡 安藤伊勢守組与頭 伴野作平
二条御城番本間五郎左衛門跡三百石御加増本多豊前守組鈴木長左衛門
右於 御座之間被 仰付之
愛宕圓福寺 金剛院^ノ使僧^ヲ以御札守差上之於 御前披露
小袖二羽織 榊原越中守

同十六日巳上刻々雨風晴夜中不止 戸田備後守召之 尾張殿へ上使被遣旨 是、尾張殿来正月五ヶ日過御参着、付而被遣之 西本願寺、御樽肴一荷一種差上之是、御不例御快然被遊候 付、也彼使者於檜之間老中謁

同十七日晴風雨午刻止 紅葉山 御名代 酒井雅樂頭元年、今日 紅葉山へ被為 成候共當冬寒氣甚敷付也 夜入岩船檢校 平家被 仰付文学一句給之

同十八日青 加々爪甲斐守組 水野彦太郎 松平豊前守組 伊藤三右衛門右 兩人式百俵、御加増、大坂御具足奉行被 仰付之

駿河帰 青山丹後守組中 御番改 於御白書院老中出座 御徒衆廿組へ如例三年に一度、御羽織可被下之旨岡野長十郎 能勢市十郎兩人被 仰渡但御徒六百人也

同十九日青 金式杖時服二 御幕奉行加藤久夫是、御幕被 仰付処 出来、付也 御暇 金二枚時服二 松坂檢校 一 山内豊前守隠居被 仰付知行高三千石俸治郎右衛門、被下右是 病者、老躰兼々御訴訟、付也 黒鉄之者頭 土岐 嘉兵衛三郎兵衛父跡役被 仰付

小林十右衛門被 召出由被 仰出是、二丸御留守居小林次郎右衛門二男 也次郎右衛門存生之時分惣領相果其俸有之、付、跡式之儀 ツフシ申依之右之十右衛門二男 有之故小十人組成共被 召出被下候様奉願候 付今日可被 召出之由被 仰渡也

同廿日 北風来上刻止晴 上野 御佛殿 御名代雅樂頭參詣 御暇 時服二 奈具 二諦坊 御礼シヤウブ皮二枚 八幡山 關加井坊使僧を以差上之處御暇使僧時服一被下之

同廿一日 今朝評定所へ美濃守出座有て御預、又流人 法花衆御法度皆 御坊主 被 仰付之 三宅嶋へ 奥州若松 妙法寺 大嶋へ 下総國濱野村 本行寺 同 同國小弓村 本満寺右法花坊主 共一流也法を立可申入仕候、付其上公事仕、付、右三人 流人被 仰付候 松平大蔵少へ御預、上総國田村 最光寺 松平中務大輔へ御預、同國高田村 福田寺 松平周防守へ、同國吉井村 光明院 龜井能登守へ、同國柴上村 学成坊 京極刑部少へ

同國大田村 満光寺 松平備後守へ、同國吉井村 玉泉寺小笠原信濃守へ 遠州可睡齋 水谷伊勢守へ、下総國高田村 常真寺 京極飛騨守 上総國榑村 安立寺 右是、公事出入有之右之通被 仰付 江戸両寺へ御預、被成 久盛寺末寺一ヶ所右之通 於評 定所被仰付之 如例年五万石以上諸大名、歳暮具服上、 紀伊宰相殿道中、使者升枝彦市を以御拜領之御鷹、 捉飼鷹二ツ被差上老中謁退去則御暇小袖二被下之 左馬頭殿御成人被成、付御元服被遊度之旨被仰入右之趣可然 様、被 思召候間家老諏訪若狭守新見備中守へ 上意之趣雅樂頭傳之

同廿二日晴 於評定所式日伊豆守出座

同廿三日晴 日光御門跡御發駕、付為 上使上秋宮内大輔 を以御菓子被遣之但蜜柑一箱 佐倉御目付帰 安藤一郎兵衛 猪飼半左衛門登 城謁老中退去 御一門方國持衆へ如例年歳暮御内書出ル使者小袖二ツ被下也 老中出座役人跡目被 仰付之

五千石 三世三郎左衛門 二千五百石 阿部權十郎 三千石 堀 三五郎 久左衛門子 大嶋喜八郎 千石 深津大膳 高二千石内 甲斐庄傳八 同、同 鍋之助 三千石 酒井七郎右衛門 三百石 同、同 千石内 日根野圖書 七白石 溝口半助 千石 大造寺弥次郎 半助子 同、同 半之助 千石 奥山喜次郎 千二百石 大久保喜六 同、同 岩手七左衛門 五百石 久留忠兵衛 三百五十石 駒井孫介 同、同 佐橋七左衛門 二百石 同 六郎右衛門 二百石 同 孫次郎 同、同 清右衛門子 本多市之丞 三百石 小林武兵衛 四百石 山田庄兵衛 同、同 四百石 本多市之丞 三百石 上野弥左衛門 百石 上野善八 同、同 六百石之内五百石 天野弥左衛門 百石 上野善八

但弥左衛門義、父之跡同心廿人御預、被成跡役御鷹匠被 仰付 三百石 齋藤作左衛門 二百石 吉田三之助 二百五十石 寺田弥左衛門 加右衛門子 五百六拾石 内藤吉兵衛 玄米八拾石 内藤源三郎 五百石 梶川万助 同、同 長谷川武兵衛 同 藤十郎 天野弥右衛門 朝比奈半弥 武右衛門子 松崎右衛門次郎 本堂甚内 深津与一郎 式百石 深沢半大夫 美濃部介次郎 久志本与四郎 二百石 志賀金五郎 三百石 高井介十郎 長田長吉

同廿五日雨 左馬頭殿 今朝御前髪被為 執、付今朝稲葉美濃守 を以被遣物 銀三百枚時服二十 左馬頭殿 同五拾枚縮緬甘巻 御母儀様へ 銀廿枚 御介様へ 同 御乳人 銀五拾枚 惣女中へ 銀三拾枚小袖五 諏訪若狭守 新見但馬守 銀三拾枚小袖三 藤枝撰津守 銀拾枚、御守衆 同 御留守居衆 右之通被遣之 綿二百把 金馬代 御太刀 宗忠代金三枚 左馬頭殿 右於 御前 御目見 御吸物出ル 御献之御祝儀在之 左馬頭殿、被下之頂戴之跡 御前、被 召出過、長光御腰物 代金五拾枚 拜領之退去右畢、已上刻御黒書院 出御 銀五百枚綿五百把御太刀、幕近代代金拾五枚家督御礼松平龜千代 名代田村右京伊達兵部少 金拾枚小袖十 大膳事 松平飛騨守 行光御腰物代金三拾五枚 松平飛騨守遺物 知行分被下候御礼 金五枚 田村右京 同 伊達兵部少 銀馬代 龜井能登守 片倉小十郎 同 薄庭周防 同 原田甲斐 參勤御礼 小袖四金馬代 本多能登守 是、被為 召付只今參勤 銀馬代 本多一学 御暇 小袖六羽織 本多出雲守

廿四日朝曇 増上寺 御名代雅樂頭參詣 増上寺、野老一折 傳通院、蜜柑一箱右歳暮之御礼登 城謁老中 加賀國 渡辺筑後守 能勢治左衛門 筑後國久留米 藤堂主馬 江原与右衛門 信濃國松代 西尾藤兵衛 荒尾平八郎 右罷帰候、付様子御尋老中出座

同廿五日雨 左馬頭殿 今朝御前髪被為 執、付今朝稲葉美濃守 を以被遣物 銀三百枚時服二十 左馬頭殿 同五拾枚縮緬甘巻 御母儀様へ 銀廿枚 御介様へ 同 御乳人 銀五拾枚 惣女中へ 銀三拾枚小袖五 諏訪若狭守 新見但馬守 銀三拾枚小袖三 藤枝撰津守 銀拾枚、御守衆 同 御留守居衆 右之通被遣之 綿二百把 金馬代 御太刀 宗忠代金三枚 左馬頭殿 右於 御前 御目見 御吸物出ル 御献之御祝儀在之 左馬頭殿、被下之頂戴之跡 御前、被 召出過、長光御腰物 代金五拾枚 拜領之退去右畢、已上刻御黒書院 出御 銀五百枚綿五百把御太刀、幕近代代金拾五枚家督御礼松平龜千代 名代田村右京伊達兵部少 金拾枚小袖十 大膳事 松平飛騨守 行光御腰物代金三拾五枚 松平飛騨守遺物 知行分被下候御礼 金五枚 田村右京 同 伊達兵部少 銀馬代 龜井能登守 片倉小十郎 同 薄庭周防 同 原田甲斐 參勤御礼 小袖四金馬代 本多能登守 是、被為 召付只今參勤 銀馬代 本多一学 御暇 小袖六羽織 本多出雲守

百俵 庄左衛門子 鈴木清五郎 三百俵 由良長兵衛 三百俵 太兵衛子 二百五拾俵 喜兵衛子 齋田孫二郎 遠山長吉 五百五拾俵 傳八 五百五拾俵 相刈九郎兵衛 玄米百石拾人扶持 清雲院兼子 長谷川徳二郎 五百五拾俵 傳兵衛子 横山猪之助 三百俵 池田玄宣 百俵拾人フチ 好庵 五拾石 將基所 宗傳 貳拾石 道仙子 宗与 五十俵 紅葉山 休齋 三浦藤四郎 豊島作十郎 河内兵左衛門 河津又四郎 大竹勘右衛門 鈴木權之助 向井千之助 河内新右衛門 山田勘右衛門 小笠原彦十郎 火番廣敷番衆跡目三拾人程被 仰付

參府御札 銀馬代 前田右近 箱肴 福原内記

太田原出雲守 同 同半六 同 荻野左門 同 細井佐治左衛門

同 大沢兵部少 同 同 板倉六左衛門 箱肴松平市右衛門

初面 御目見 森川弥十郎 宮原左京 小出權之助

近藤左兵衛 水野半左衛門 大森五郎介 伊丹大藏

瀧川次郎四郎 坪内源五郎 大岡三之丞 山田造酒介

本多長五郎 山田源七郎 真田辰之助 小見彦五郎

江原次郎八 西尾次郎兵衛 渡辺三之助 高井長介

山口十三郎 太田二郎大夫 秋浦兵九郎 筒井弥十郎

鳥居一学 宅間八十郎 大久保清大夫 長谷新平

柘植七郎兵衛 津田七左衛門 大久保弥兵衛 間宮岩之助

松崎十左衛門 右何も銀馬代 青銅百足^二持参^一 一同

御目見終 入御

老中列座 役替被 仰付候 御小納戸へ 三宅藤十郎

御膳奉行へ新御番を松平五郎大夫 御弓矢奉行 太田嘉兵衛

御襖タンス奉行 榊原善右衛門 大御番組頭 鈴木十左衛門跡 本多

豊前守組佐々木庄五郎 大御番与頭伴作平跡 安藤伊賀守組を

中山権左衛門 三宅傳左衛門与頭を長谷川伊佐衛門川村善次郎与頭を竹嶋

四郎右衛門右玉葉奉行被 仰付 恒岡源兵衛 加藤傳兵衛 榊原左衛門

右三人御役御免

同廿六日 暮已下廻り 老中出座御加増被下候面々

三百俵^二御加増^一 御見権七郎 夏目平左衛門 大久保彦兵衛

式百俵^二御加増^一 松平豊前守組頭 松平九郎右衛門 筒井治左衛門

安藤伊賀守組頭 森川六左衛門 石川助左衛門 百俵御加増 御納

戸頭 下山四郎左衛門 三百俵以下之御番衆へ百俵^二御加増被下面々

水野因幡守組 大久保四郎左衛門 上同断 品川主馬 森川下総守組 伊東甚之丞

大沢源五左衛門 土屋兵部少組 成瀬与太夫 伊東善右衛門 戸田相模守組 小出

甚左衛門 大久保出羽守組 戸田三郎右衛門 本多土佐守組 一色九左衛門 朝倉新十郎

仙石因幡守組 三井十兵衛 松平伯耆守組 一色仁左衛門 米津出羽守組 亀井

貞右衛門 土岐作左衛門 酒井藏人組 多門藤兵衛 石野忠右衛門

式百俵被下御右筆衆 渡辺傳四郎 加茂富庄右衛門 松野又右衛門

芦野孫左衛門 水野伊兵衛 齋田久太郎 中村平右衛門

百五拾俵五拾俵^二御加増都合二百俵被成下御鷹師 天野傳十郎

中山勘兵衛 加藤権左衛門 諏訪部文九郎 西川清左衛門 石井孫左衛門

桑嶋助左衛門 百五十俵新規被下御勘定 堀江半七 水上市右衛門

三十俵 御徒目付 柴田金右衛門 四拾俵^二御中頭^一 内田与左衛門 二十俵 御掃除之者

豊田半兵衛 五拾俵合百俵御臺所方 鈴木八郎兵衛 十俵同小間造 大塚

九右衛門 浅井彦兵衛 御臺所方羽根源兵衛 四十俵^二都合百俵被成

時服三 御右筆 久保吉右衛門 金二枚 大橋長左衛門 金三枚 建部傳右衛門

飯高七兵衛 同二枚 杉浦半左衛門 森新兵衛 金十枚 御徒 田付四郎兵衛

同式枚 小細工奉行 備中加右衛門是 浅草御蔵作事奉行仕 付て被下也

金二枚小袖二羽織 道奉行 美濃部一学 天野孫左衛門 深津七右衛門

西山十右衛門 金二枚 時服二羽織 村上左衛門 小笠原源六 廣戸半七

山木安兵衛 原田平兵衛 牧野傳兵衛組御徒与頭 久下作大夫 石谷五右衛門組

御徒頭 真嶋彦大夫 榊原大膳組与頭 小野弥市郎 中西圖書組御徒与頭

熊谷与五左衛門 八十俵^二御加増都合百拾俵 成長田平十郎

三浦彦兵衛 坂崎権左衛門 切手番之頭被 仰付

日光御門跡明日登山^二付吉良上野介を以御菓子被進之

廿七日 北風驟夜入甚風夜中止 小袖三 酒井雅楽頭 同二 松平伊豆守

同 阿部豊後守 同 稲葉美濃守 右於 御前拜領

同廿八日晴 如例月御礼有之 參勤之御礼 箱肴 奥平大膳亮

同 土屋民部少 同 西郷若狭守 病後同 戸田土佐守

湯治帰同 牧野因幡守 次^二山王最教院 日吉大膳奉進物

御礼右過^一 下段合襖障子開之御次之間寄合之面々疊縁

御連哥師 外板縁^二御扶持人之町人一同御礼 入御

金五枚 能勢山城守是^一例年被下候 官位 侍從織田山城守

四品 織田内記 諸大夫人々 田付右京 鍋嶋撰津 松浦

源三郎 酒井奎 溝口金十郎 伊東民部 堀又七郎

小堀大膳 松平内匠 堀三右衛門 秋元甚九郎 伊丹藏人

板倉主水 石川内膳 前田右近^二松平主膳 松平主馬

加藤織部 小出与平次 立花民部 細川七之助 森兵藏

大久保大学 織田左近 西郷孫六 六郷伊織 五嶋主税

曾家太郎右衛門 屋代越中

右之通り 上意之趣老中傳之 半井驢庵子内匠典菓

頭被 仰付

同廿九日晴 紀伊相公へ 上使水野周防守を可被遣候内意為被仰遣

如例 白散 道三差上候

同晦日 夜中曇天^二下廻^一 為歳暮御礼御一門方登 城謁老中

退去金三枚小袖三^二増上寺学領普請奉行石谷七之助

折井市左衛門是^一増上寺地内^二知恩院学使所在之申所出来

二付^一也

縁組 戸田半助娘 榊原左衛門へ 小栗平吉娘 諏訪左門^江

紀伊殿少し風氣^二付無出仕依之名代渡辺若狭守登

城謁老中

※ 日録は前田右近と松平主膳の間に次の名あり (松平采女は重複か?)

松平采女 松平采女 土岐左京 相良長十郎 分部左京 一柳主水